平成30年第2回基山町議会（定例会）会議録（第4日）						
招集年月日	平成30年6月1日					
招集の場所	基山町議会議場					
開閉会日時	開会	平成30年6月4日	9時30分	議長	品川義則	
及び宣告	散会	平成30年6月4日	14時55分	議長	品川義則	
応（不応） 招議員及び 出席並びに 欠席議員 出席13名 欠席0名	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1番	松石健児	出	8番	河野保久	出
	2番	大久保由美子	出	9番	重松一徳	出
	3番	末次明	出	10番	鳥飼勝美	出
	4番	栗野久明	出	11番	大山勝代	出
	5番	久保山義明	出	12番	松石信男	出
	6番	牧菌綾子	出	13番	品川義則	出
	7番	木村照夫	出			
会議録署名議員	4番	栗野久明		5番	久保山義明	
職務のため議場に出席した者の職氏名	(事務局長) 藤田和彦		(係長) 久保山晃治		(書記) 久保山裕香	
地方自治法 第121条 第1項に より説明の ため出席 した者の 職氏名	町長	松田一也	産業振興課長	毛利博司		
	副町長	酒井英良	まちづくり課長	内山十郎		
	教育長	大串和人	定住促進課長	長野一也		
	総務企画課長	熊本弘樹	建設課長	古賀浩		
	財政課長	平野裕志	会計管理者	酒井智明		
	税務課長	寺崎博文	教育学習課長	井上克哉		
	住民課長	吉田茂喜	こども課保育園長	高木久幸		
	健康福祉課長	中牟田文明	産業振興課参事	寺崎一生		
こども課長	平川伸子	まちづくり課図書館長	天本洋一			
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

会議に付した事件

- 日程第1 議案第22号 基山町地域優良賃貸住宅設置及び管理条例の制定について
- 日程第2 議案第20号 基山町地域優良賃貸住宅基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について
- 日程第3 議案第24号 基山町地域優良賃貸住宅の指定管理者の指定について
- 日程第4 議案第21号 基山町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の制定について
- 日程第5 議案第23号 基山町税条例等の一部改正について
- 日程第6 議案第25号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び同組合理約の変更について
- 日程第7 議案第26号 平成30年度基山町一般会計補正予算（第2号）
- 日程第8 議案第27号 平成30年度基山町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第9 議案第28号 平成30年度基山町下水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第10 報告第2号 基山町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について
- 日程第11 報告第3号 基山町土地開発公社の事業報告について
- 日程第12 委員会付託

～午前9時30分 開議～

○議長（品川義則君）

ただいまの出席議員数は13名で定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。
これより直ちに開議します。

日程に入ります前に、6月1日の報告第3号の詳細説明について、長野定住促進課長より訂正の申し出がありましたので、許可をいたします。長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

おはようございます。1日の本会議にて御説明を差し上げました報告第3号 基山町土地開発公社の事業報告につきまして、一部資料の訂正がございますので、報告第3号資料の一部差しかえをお願いするとともに、訂正内容を御説明いたします。

訂正前の報告第3号資料34ページでございます。

34ページ、こちら平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度基山町土地開発公社予定キャッシュ・フロー計算書でございますが、こちらにつきまして、下から2段目、現金及び現金同等物期首残高、こちら、平成30年4月1日現在の期首残高となりますが、こちら、315円と表記しておりましたが、正しくは4万6,349円でございます。

これは、資料の13ページにて御説明いたしました平成30年3月31日現在の現金及び現金同等物期末残高4万6,349円——済みません、13ページの一番下の行ですね。こちらと同じ金額となるものなんですけれども、正しい数値が表記されていなかったというものでございます。

これによりまして、戻りまして、資料34ページ下から1段目、現金及び現金同等物の平成31年3月30日現在の期末残高につきましても、こちらが4,134万39円と御説明しておりましたが、正しくは4,138万6,073円となります。

以上をもちまして、詳細説明の訂正を終わります。大変申しわけございませんでした。

日程第1 議案第22号

○議長（品川義則君）

日程第1．議案第22号 基山町地域優良賃貸住宅設置及び管理条例の制定についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。ありませんか。牧菌議員。

○6番（牧菌綾子君）

いただきました資料の基山町地域優良住宅設置及び管理条例施行規則（案）のところの公

募の例外というところなんです、所得基準に該当する者で例外となる部分は、別枠というのか、町長判断で入居させることができると思いますが、スタート時点であれば、公募によって、この時点でこういう人がいるとなれば、公募の方たちを優先するということなのかということと、それから、もう既に入られて、みやき町あたりは100%入られているから、そういう空きがない場合にこういう方ができた場合に、ここに公募を行わず入居させることができるから、どの時点でそういう人たちを入れることができるのか、この辺のところを教えてください。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

お尋ねの件でございますが、まず、スタート時におきましては、ある意味、公募をまず想定しておりますが、仮にその時点においてここで優先すべき方、具体的には災害等の場合を想定しているんですけども、そういった方がおられれば、その方々については公募を行わずということになると思います。

もう一点、先ほどのみやき町の例ございましたけれども、基本的に、今後実際に入居をして、その後、空きが出た場合に、公募によらずに入居できる方というのを公募することなく入居させるという流れになるかと考えております。

○議長（品川義則君）

牧菌議員。

○6番（牧菌綾子君）

では、確認ですけども、町長判断で不良住宅の撤去及びその他の特別な事情ということで、この人にはそういう措置をしなければいけないとなっているけど空きがない、空きが出たら入ってもらおうというけど、最初の時点では空き出ませんよね。そういう場合に、これはできるということだから、しなければならないではないけど、そういう人たちに対しては、じゃ、空きが出たらしますからね、お待ちくださいみたいな感じなんじゃないですか。公募の例外ということで項目があるので、すごくそういう方たちは、ああ、こういう配慮が町としてもあるんだというふうに思うんですけど、ちょっとその辺が微妙な、やっぱりそういう方たちが出たけど空きがなかったらどうするんだろうかというところまで考えるんですけど、それはどうなんでしょうか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

そうですね、空きがない状況で、では、例えば、今住んでいらっしゃる方をちょっとほかに移ってくださいますかと言った方を入れるかというのは非常に難しいところがございます。仮にそういう、要は入居率が100%の場合にそういう方がいらっしゃった場合には、所得の状況にもよるかもしれないんですが、町営住宅のほうを御案内する形になるかと考えております。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

今の議案第22号のところで資料をいただいておりますよね。資料6ページですね。その第14条のところの、ちょっと読ませていただいて、公的賃貸住宅家賃低廉化事業対象要綱というところによって、「第8条第2項第2号のいずれかに該当する者については、家賃の減額を行うことができる。」という文言が出ておまして、これは全員協議会でも説明が資料はありましたけど、そのいずれかに該当というところを簡単に説明いただければと思います。

それと、その第14条の3項の3番目のところに、第2号、いろいろ読むとあれなんですけど、該当する者にあつては6年、その次のところに該当する者にあつては20年、そして、最後に該当する者にあつては3年となる、ちょっと私、文章を省略して言いましたけど、その6年、20年、3年というそこら辺を、ちょっとこれも簡単に御説明していただけないでしょうか。その2点をお願いします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

お尋ねの件でございますけれども、済みません、内容がわかりづらくて大変申しわけございませんが、先ほどの資料の6ページの第14条の部分ですね。

今回、基本的には入居者——入居資格、入居基準に該当する方については、全員家賃の減額の対象とすることを考えております。それはなぜかといいますと、根拠としては、資料6ページ第14条の第2項のほうですね。こちらに「前項の規定にかかわらず、所得基準に該当

するものは、家賃の減額を行うことができる。」こちらの規定に基づいて、基本的に入居資格がある方については全て家賃の減額を行うこととしたいと考えております。

じゃ、その前項ですね、第1項にある公的賃貸住宅家賃低廉化事業対象要綱、これは何かといいますと、その一定の基準、第3項に掲げている部分なんですけど、こちらに該当すると、国のほうから社会資本整備総合交付金、社交金の交付がございます。あと、今回、減額の原資となっている部分としては、建設費用に対して国から45%来ます社交金及びPFI事業で行うことで事業費の低廉化が図られた部分、これを財源にして家賃の減額を行いますので、この第14条の第1項に定めております要綱に従って国からいただくお金を充てるということではございません。

ちなみに、ここの要綱の内容を、ちょっと内容が長いので概要を御説明いたしますと、この第8条第2項第2号のところについては、今回の地域優良賃貸住宅、国で定める要綱で子育て世帯ですとか新婚世帯ですとか、そういった世帯が列挙してありまして、具体的に今回の施行規則案の第14条第3項のところですね、それぞれこれに該当する者にあっては6年。6年のところで、例えば、未就学児がいる世帯ですとか、子育て世帯ですとか、あと、被災者の方ですね、こういった者が6年間ですね。続いて、20年のところでいけば、例えば、お子さんが3人以上いらっしゃるですとかひとり親世帯ですとか、こういったものについては20年間。その次、3年とあるところについては新婚世帯、こういったものが3年で、この年数というのは、この年数においては国から家賃低廉化事業対象要綱に基づく社交金ですね、家賃の減額分の45%、今回ですと1万円とか1万2,000円とか言っている部分の45%の金額が国から交付をされるということになっております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

いろいろ難しい規則があるということですね。

それと、続いて、8ページの同居承認というところの第25条の第2項の(1)、これは当該承認による同居後に当該入居者に係る収入が所得基準を超えないことということは、最初は所得基準内で入られたと思うんですが、その後同居された方とかに所得があって、結局、所得上限内で入ったけど上限以上になったとか、そういうところまできちんと規則はありますけれども、そういうところをどうやって確認されますかね。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

所得基準の該当性の確認なんですけど、今、手続は具体的に検討中なんですけれども、毎年所得証明と申しますか、所得を確認するようにしております。当然、同居承認願とか各種届け出を出していただく必要があるんですけども、例えば、そこで所得基準を上回るということがわかった場合については、先ほど御説明した施行規則の中では所得基準に該当する場合は減額をできるとなっていますので、所得基準に該当しないとなると減額ができないという規定になりますので、その場合は減額前の家賃を適用することになるかと考えております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

ということは、そこでチェックされて、減額できるか基準の入居金額で変更になる可能性はあるということですね。はい、わかりました。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

議案第22号、そして20号、24号の関係も少しあるんですけども、まず第1点は、基山町地域優良賃貸住宅という名称が本当にいいのかという中身なんです。

基山町は子育て若者世帯の定住促進住宅というふうに最初は言っていたんですね。そういうふうな関連で3本ありますよと。そして、この地域優良賃貸住宅というのは、これは国がこういう名称で取り組んでいる一つの事業なんです。だから、必ずしも若者向けとか子育てとかに限定していないんですね。どっちかという、中流層と申すまいか——の住宅を促進するための一つの国の施策としてこの名前が使われているんですね。そうすると、基山町の条例にまずこういうふうな名前をつけるよりも、私は基山町は先ほど言ったように、子育てとか若者世帯の定住促進を担うんだと、進めるんだというのであれば、この議案第22号、20号、24号ともに、まず最初にこの名称を子育て若者世帯の定住促進住宅の設置及び管理条例というふうにしなければならないというふうに思うのがまず第1点です。

それと、第2点は、それぞれ第2条の用語の定義なんです。この用語の定義の中で、子

育て世帯、そして新婚世帯をうたっていますけれども、これは国の要綱から持ち込んで言いますよと言っても、例えば、町民はこれを見てもさっぱりわかりませんね。だから、追加資料で出されましたね。例えば、子育て世帯とは、同居人に18歳未満の者または妊娠している者がいる者をいうというふうに書かれていますね。そしてまた、新婚世帯についてもこうですよというふうな文章がありますね。そうすると、私は、それを条例の中にうたわなければならないんじゃないかと。何々をもって第32号に該当する者をいうとか、そういうふうな書き方よりも、具体的に書いたほうが町民の方は見てわかるというのが2点です。

それから、少し出ましたけれども、入居者の資格ですね。資格は私はこれでいいと思うんですよ。ところが、資格が消滅した場合、例えば、子育てが終わったと、18歳未満の子どもがもう大学へ行った、社会人になったと。終わった場合の退去の関係、これは明記されていませんね。そうすると、1回入居した人は、これは優先的にずっと、例えば、言い方は悪いけれども、もう死ぬまでここに入っておこうと思えば入っておけるんじゃないかと。そうすると、先ほど言った若者向けとか子育て世帯とか新婚世帯とか、そういうところが全く退去の関係も明記しておかないと難しいんじゃないかと。

民間のアパートなんかでも、よくこれは法律問題とかいろんな問題で出てくるんですね。ですから、これはどのような取り扱いをしているのかというのと、この3点について質問いたします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

3点御質問いただきました。

まず1点目、条例の名称の件なんですけれども、確かに名称のところは検討をいたしました。なぜ地域優良賃貸住宅ということにしたかといいますと、先ほど議員おっしゃられたとおり、国の制度、要綱に基づいて今回、整備をするというところをある意味明確にしているというのが一つと、もう一つは、今回、この住宅整備、そして、運営管理で入居の方がたくさん来ましたと、もしうまくいった場合に、同じ地域優良賃貸住宅という制度の中で、例えば、第2号ですとか第3号ですとか、そういった案件ができればというところの思いもありまして、条例の名称自体は制度の大枠といいますか、地域優良賃貸住宅ということでさせていただければというふうにご考えているところでございます。

2点目ですね、用語の定義の子育て世帯、新婚世帯で、国の要綱をそのまま持ってきているのでわかりづらいのではないかとこのところなんですけれども、これも先ほどと同様でございまして、国の制度に従いまして、対象世帯の方に対して国からも補助が来ますと。国の制度にのっとった施策なんですというところをある意味明らかにするという意味で、こういう書き方をさせていただいております。

確かに住民の方ですとか入居希望者の方からすると、ここだけ見るとわかりにくいかと思うんですが、そこについては、当然、今後入居の募集等を行っていく際に、対象世帯ですとか入居基準のところは明確に打ち出してPRしていきたいと思っておりますので、そちらでカバーしたいと考えております。

3点目ですね、資格が消滅した場合、子育て世帯でなくなった場合とか、その場合にどうするかというところなんですけど、ほかの自治体、まだ何十年もたっているわけではないんですけど、ほかの自治体の事例も参考にしているところなんですけど、まず今回の事業が民間事業者によって行っていただく事業ですと。ある意味、これは町営住宅でも同じなんですけれども、基本的に家賃をしっかりと払っていただくというのは当然の考えでございまして、その家賃収入をもとに民間事業者としては事業を運営していくことになります。

その観点からいったときに、例えば、子育て世帯じゃなくなりましたといった方を積極的に、言い方は悪いですけど、追い出すようなことが果たしていいのかどうか。今回の住宅整備の目的として、町内、特に中心市街地に人口を呼び込むという観点がございまして、あえてせつかくお住まいいただいた方を追い出すようなことが妥当なのかというところもありまして、今回、あえて入居期間ですとか資格を喪失したときに退去してもらおうというようなことは定めておりません。

ただ、先ほど所得基準のお話をしましたけれども、この子育て世帯等に該当しなくなった場合については、基本的に家賃の減額というところはすべきではないのかなと思っておりますので、先ほどの所得と同じで、子育て世帯等でなくなったということがわかりましたら、家賃については減額前の家賃をいただくということを考えております。それで民間の事業者、ほかの物件との平衡性というのも保たれるのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

最初の名称の関係については、今回の場合は、これは言われるように、例えば、みやき町にしても、ほかの市町で取り組んでいるのを見れば、こういうふうな名称を全て使われているんですね。それでいかれるという形で今、提案されているんだろーと思えますけれども、基山町が将来、例えばですよ、高齢者向けのこういうふうな優良賃貸住宅をしたいといった場合は、私はまたこういうふうに変う名前できちっとした条例をつくったほうがいいんだと。この地域優良賃貸住宅という国の制度を使ってこういうふうに変う条例をするのはわかりづらーいと。なるべく私はわかりやすいように、わかりやすいようにしたほうがいいというのが第1点です。

これは名称の関係ですから、いや、町が変える意思はないと言われればそうかもしれませぬ。ただし、本当に今から先30年間続く事業ですから、やっぱり今きちっと、こういうふうな条例とか施行規則とかは最初にきちっとしておくべきなんだというのが私の考えでもあります。

それから、2点目の資格の関係ですけれども、当初、この地域優良賃貸住宅をやっているという提案の中で、私はこういうのを聞いたんですね。若者向けに基山町に入ってきてもらって、そして定住してもらうために、まず賃貸住宅のほうに入ってもらって、少し減額もしますから、そこで少し貯金をしてもらいたいと。そして、子育てが終われば、できたら基山町に引き続き定住してもらうために、例えば、自分で家を建てるとか、そういうふうにして基山町に長く住んでもらいたいんだと。早い話が、次に次に新しい人に基山町に来てもらいたいというのが、この地域優良賃貸住宅の一番の取り組みのもとだろーと私は思うんですね。だから言ったように、子育て・若者世帯の定住促進の住宅なんだというのが大事ですから、先ほど課長言われましたけれども、そういう曖昧な形じゃなくて、やっぱり入居資格をきちんと訴えて書くなら、この入居資格が消滅した場合の扱いについても今のうちにしておかないと、早い話が、来年4月から入居して二、三年でもう子育てが終わる世帯も出てくるかもしれませんよ、18歳以上になれば。15歳の中学生が入って3年たてば、もう資格は消滅しますからね。だから、私はこれは早く決めたほうがいいというのと、もう一つは、先ほどから少し出ましたけれども、家賃の減額ですね。基山町の場合は15%ですね。みやき町は25%かな、減額幅が広いですね。そして、大刀洗町も20%から減額しておるんですね。よその市町によって家賃の減額幅は違うんですね。それはその市町の住宅状況とかいろいろある

かもしれませんが、こうして基山町に若者が入って住んでもらいたいと思う中で、ぎりぎりここまで基山町は減額幅を下げて入居を促すんだというところでの15%減額というのは、私は少し低いんじゃないかなと。なぜなら、もともと基山町のアパートの家賃は高いですね。だから、私も聞いたんですけれども、減額したとしてもまだ高く感じるという子育て世帯とかが多いんじゃないかというふうに思いますけれども、この辺の15%にするときの参考資料ですね、どこからこの15%というのを持ってきたのか、あわせて質問いたします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

済みません、ちょっと順番前後いたしますが、先ほどの家賃の減額の部分につきましては、今回、追加の資料の2ページでお出ししているんですが、考え方としては、実際、減額後の家賃というものをSPCが収納して、一旦町に入ってまたSPCに払うんですが、この家賃で今後30年間事業の運営を行っていただくこととなります。SPC、事業者としては、想定の入居率を93%程度で、この家賃でやっていくという話になってはいますが、例えば、これ以上に減額をしていくといった場合に、じゃ、その財源はどこから来るのかという話になりまして、さらに減額するとすれば、恐らく町の単費、要は町の予算から持っていけないといけないという形になりまして、そうすると、最初申し上げていたゼロ計ですね、要は手出しがない形での整備・運営がちょっと難しくなってしまうので、このあたりがある意味ぎりぎりなのかなというふうに考えているところでございます。

あと、入居資格の部分ですね。今の時点で今後の退去の部分ですね、資格に該当しなくなった場合の退去を考えておくべきではないかというところなんですけど、確かにその点についてもいろいろ検討はしたのですが、ちょっと言い方が適切かあれですけれども、この事業をまずやってみて、その後の状況に応じて、そのあたりの取り扱いをどこまで厳格にやっていくか。運営の方法として、例えば、入居の資格に該当しないということであれば、原則論からいけば入居の資格がないということになってきますので、そのあたり、先ほど申し上げた家賃の減額のとりやめに加えて、退去とかを求めるかといった運営の方法については、今後の実際の事業を運営してみても状況に応じて検討していきたいなというふうには考えております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。松石信男議員。

○12番（松石信男君）

3点ほどお伺いをいたします。

まず第1条の趣旨、目的ですけれども、全体的にそうなんです、この地域優良賃貸住宅に関しては公営住宅法の適用はされないのかどうかですね。これが第1点。

あと、2つ目が、施行規則の4ページ、入居の決定及び通知ということがあります。これはいつされるのかということなんです、いただいた行程表によりますと、もう今月から第1次募集が始まります。そうすると、すぐこの条件に合致すれば6月末でも決定して通知しますという形になっていくのか。そうすると、もう来年の4月の開設というか、それを待たずに決まるということも当然あり得るのかなというような感じもしますが、その通知はどのようにされるのか。

それと、同じく4ページの連帯保証人は2人必要ですというふうに書かれております。ところが、町民の方からは、なかなか連帯保証人になり手がないと。1人見つけるのがやっただとか、なかなか困難だという声を聞きます。これを1人に絞ることはできないのか。この2人にした根拠ですね。いや、2人にしたほうがきちっと家賃は保証されますのでということなんでしょうけれども、この2人にした根拠は何によるものでしょうか。

その3点、お願いしたいと思います。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

3点御質問いただきました。

まず1点目ですね、公営住宅法の適用の件なんです、済みません、もしかすると細かいところ正しくないのかもしれないんですが、今回の住宅については特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律に基づいて整備をすることとなっております。具体的に公営住宅法または公営住宅法に定めるような内容ですね、この規定の適用関係が、ちょっと済みません、今、不勉強ですぐお答えできないのですが、基本的には公営住宅法に定める公営住宅というものと今回の地域優良賃貸住宅というのは定義が別だと考えておりますので、一義的には特定優良賃貸住宅法に従うことになるかと考えております。

2点目ですね、入居決定のタイミングなんです、それこそ募集については今のところ6

月の中旬、下旬から募集を開始しまして、その後、10月ぐらゐまで募集の期間を置いております。ですので、今、30戸ですので、そこでもし30枠埋まりましたら、10月、11月以降の決定通知ということになるかと思っております。

決定の通知については町として行うんですけれども、通知書の交付等につきましてはSPCのほうで行うことになるかと考えております。

3点目ですね、連帯保証人2名の根拠というところなんですけど、ここについては、正直、先例ですとかそういったところによっているというところで、実際、確におっしゃるとおり連帯保証人2名ってある程度ハードルが高い部分かなと思っております。当然、民間事業ですので、家賃をしっかりと回収するというのが重要になってくるという意味で2名というところになっているんですけど、他方で、保証会社の利用というところをSPCとしてこれまでの実績がありまして、家賃保証会社の利用というのをおすすめしているというところで、今回、基山町の住宅整備の場合も、連帯保証人が難しいということであれば、そちらの利用を促すといひますか、そういうことを考えております。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

今回の若者向けの賃貸住宅については、端的に言えば、公営住宅法は適用しないと。何かまだよくわからないけれどもというふうにおっしゃったけれども、ちょっと違うというふうな、そこんにきがちょっとはつきり、公営住宅法は適用されませんということをするかしないかという、やはりこれははつきりしておく必要があるんじゃないでしょうか。

それと、連帯保証人なんですけど、今言われたように、確かにわかります。しっかりとやはり家賃を納めていただくと。滞納してもらおうと困るわけですから。しかし、連帯保証人に関しては家賃保証会社がちゃんとやりますからと、ちゃんと2人分について連帯保証会社でやっていただけるということは確実なんですか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

公営住宅法の適用の関係なんですけれども、考え方、大きな概念としては公営住宅の中に入ってくるんですけれども、整備の方法ですとか、あと、国からの費用の補助の部分ですね、

ここについては、先ほど申し上げた特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律に基づいている制度ということになります。

先ほどの連帯保証人の件でございますが、保証会社の利用が確実かというところではあるんですけども、ちょっと細かいところ、例えば、保証会社の審査の内容ですね、済みません、そこまで今、手元に資料がないんですけども、基本的には保証料が必要になってまいります。では幾らかというのも、済みません、細かい資料がないのですが、保証料というものを支払うことで保証会社の保証を受けられるという形になっております。（「今のところ、後ほど明確に答弁できますか」と呼ぶ者あり）はい。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

最後の質問ですが、非常に保証という点では、もちろん町営住宅の入居条件にもあるわけですけど、1人は見つかったと。2人目がなかなかとか、そういう相談を受けます。それで、さっき言われた家賃保証会社がきちっとその辺は保証してくれますよと、安心して申し込んでくださいということになるのが、やはりいいのではないかと思います。

それで、資料の中にみやき町や大刀洗町の資料も出されているところですが、そこでは、実態として家賃保証会社に対して連帯保証人を頼んだという例はあっているのでしょうか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

家賃保証会社の利用の状況ですね。済みません、ちょっとまた前後しますが、みやき町の事例については、ほぼ全て家賃保証会社を利用されているそうです。

先ほどの保証料の件なんですが、多い事例としては、初回、月額家賃の50%、半分をいただいて、以後、1年ごとに1万円程度と設定している業者が多いということです。ですので、今回の場合も同等のものになるかと考えております。

○議長（品川義則君）

松石健児議員。

○1番（松石健児君）

2点ほど、ちょっと細かいところですけど、お伺いいたします。

まず1点だけ、5ページの第13条の第2項、入居者は毎月夏までに……（「資料」と呼ぶ者あり）

○議長（品川義則君）

どっちですか。

○1番（松石健児君）

済みません、資料の5ページです。第13条の第2項、「入居者は、毎月末日までに、その月分の家賃を納付しなければならない。」とあります。これは、民間の一般的な慣例では、毎月末までに翌月分の家賃を納付しなければならないというのが通例ですけれども、なぜこういう形にされてあるかということをお返事ください。

これは、あわせて第35条の駐車料についても同じです。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

家賃と駐車場の利用料金の納付のタイミングですね、こちらについては、公営住宅の場合と同じような考えで、制度上の考えですね、要は先取りをするのが適切かどうかということで、毎月末までに、ある意味後払いの形ではございますが、その月分の家賃を月末に納付するという形にさせていただいております。

○議長（品川義則君）

松石健児議員。

○1番（松石健児君）

変更することも可能なんですかね。ここで現状こういうふうな形でしているので、それが極めておかしいことだというふうには申し上げませんが、通常であれば、やはり先に使う前に支払って使うというのが商業的にいろんな形では当然のやり方だと思うんですけれども、そのことについて、今後、検討することはないのかどうかというのをもう一度お返事をいただきたい。

それと、資料の8ページの第24条の第3項、建物、部屋の内部とかを模様がえあるいは増築した場合は原状回復しなければならないということですが、これ以外に、例えば、台風で窓ガラスが割れた、あるいは水道漏れがあつて部品を緊急にかえなくてはいけなくなったというようなことが起こった場合、もちろん管理会社に先に連絡をして、そこが対応し

てもらおうということは必要だと思うんですけども、緊急を要する場合は、借り主がその同等のものを使って修理をするという場合には、貸し主側がその分の代金を支払わなくてはならないという場合が起こると思うんですよね。その辺の内容については、この条例の中でうたわなくてよろしいのでしょうか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

今の2点の件ですね、お答えいたします。

まず家賃の納付のタイミングのお話ですね。こちら、施行規則の定め方で、今、毎月末までにその月分の家賃を納付しなければならないとなっております。逆に言いますと、前払いというのも妨げられるものではない条文に今はなっております。

これは運用の部分になりますけれども、実際の運用は、先ほど議員おっしゃるとおりで、事業としては当然先にいただくというところがやりやすい話でもございますので、実際の運用としては先払いの形であることを今、考えているところでございます。

○議長（品川義則君）

課長、じゃ、規則を変更するということですか。

○定住促進課長（長野一也君）

違います。施行規則についてはそのままの形でございまして、実際の運用の部分で前払いという形をさせていただきたいと。（発言する者あり）前払いすることも可能ということでございます。

○議長（品川義則君）

それはどこに決めるんですか。だから、規則の話をしているんですけども。

○定住促進課長（長野一也君）

規則は——家賃の納付の件ですね、済みません。

規則としては、先ほど申し上げた公営住宅と並びの考え方で、毎月末までに家賃を納付しなければならないとしております。したいと考えております。ただ、実際の運用上で、これまでの実績としては、前払い、その月が始まるまでに納付をいただくというケースでやっている事例がございまして、その方法につきましても、まさに今、検討中、協議中というところでございます。

○議長（品川義則君）

答弁調整のため暫時休憩します。

～午前10時17分 休憩～

～午前10時27分 再開～

○議長（品川義則君）

休憩中の会議を再開します。

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

申しわけありません、先ほどの松石健児議員の御質問に再度お答えさせていただきます。

まず、家賃の納付のタイミングの件でございますが、こちらは、今回、地域優良賃貸住宅、町が家賃を徴収する形態でございます。そういった公として設置するものでございますので、家賃について先にお支払いいただくということじゃなくて、あくまで債権が確定した毎月の末までにその月分の家賃を納付いただくという形をとらせていただきたいと思います。

それから、修繕の件でございます。こちらは実際の契約書の中になってくるかとは思いますが、修繕については町が——町といいますか設置者ですね、一義的に修繕の責任を負いますので、そこについては、緊急で、例えば、先ほどおっしゃった窓ガラスが壊れたとか、そういった場合には、SPCのほうで今回、24時間のコールセンターを置く形になっておりますので、SPCのほうで速やかに責任を持って対応いただくということになります。

○議長（品川義則君）

松石健児議員。

○1番（松石健児君）

もうあと1回しか質問できないので、そうすると、一応規則上は月末までに当月の分を支払うということですけど、確認ですけれども、これは管理会社も同じような形で行うのかどうかですね。管理会社が借り主に対して同じような条件で行うのかどうかという確認と、それと……

○議長（品川義則君）

松石健児議員、何を行うんですか。

○1番（松石健児君）

家賃の回収というんですかね、家賃の回収について管理会社も同じような形で行うのかど

うかということが1点と、先ほどの第24条の分ですね、これは宅建業法の中でも多分あると思います。ここで原状回復のことをうたっておりましたので、もし管理会社のほうで、これは仮に24時間体制で管理をしていたとしても、借り主が負担をした場合は、管理会社が負担すべきものを貸し主が修繕等で使った場合は、それを負担しなくちゃいけないというところがありますので、その辺はもう一度確認をしていただきたいと思います。

第24条のほうは今後確認をしていただきたいと思いますということで、第22条の管理会社についての管理は同じようにやっていくのかどうかの御回答をお願いします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

あくまで町としては各月の末日までに家賃を納付しなければならないと定めております。あとは事業者と契約者の話ということになってまいりますので、町として管理会社に先に徴収してくださいとか、そういったことを申し上げることはできないので、町としては毎月末までに納付してくださいという定め方をさせていただいているところでございます。

○議長（品川義則君）

木村議員。

○7番（木村照夫君）

入居者の資格なんですね。子育て支援、新婚世帯とか、その他町長が必要と認める世帯、先ほど被災者の話がございましたけれども、ほかに町長がオーケーを出せる要件とか、ほかに何かございますか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

考え方、済みません、具体的に全て網羅できてはいないのですが、今回、施行規則の案のところ、資料の3ページになりますが、公募の例外に掲げている部分ですね、災害、不良住宅の撤去。この撤去の場合は、町として撤去しなさい、そういったものになってまいります。主に想定されるのは、やはり災害の場合ですね。こういった場合には、公募によらずに入居をすることができる。当然、入居の資格がその場合は当然個別の審査になってまいりますけれども、条例でいいますと、その他町長が必要と認める世帯に該当するとして入居を認

めるということになるかと考えております。

○議長（品川義則君）

木村議員。

○7番（木村照夫君）

うん、それで、その条件も若い世代に限定するものか。それをお願いします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

その場合は子育て・新婚世帯には限定をしないことになります。ただ、当然先ほど申し上げた空きの状況ですとか所得基準には該当している必要がございますので、そういったことになるかと思えます。

○議長（品川義則君）

木村議員。

○7番（木村照夫君）

それと、確かに若者向け住宅、内容を見ますとそうなんです。国の助成も家賃も安くするんだと。民間企業は、確かに新婚アパート等がございました。でも、資格を失う退去条件ですね、あと何年後に持ち家、戸建てをつくりなさいとか、そういう案件もあったわけですね、企業によればですね。それで、ずっとサイクルを変えていくんだと、次は若い人に渡していくんだという、私の解釈はそうでした。そのためには、安い家賃でさっき言われた貯金、資金をためて次の戸建てを買うんだと。これも基山町、また一戸建てを町内でつくれば、町外から来て、また出ていかないで子どもさんをつくっていけば、また新しい若い人が来るんだと、そういうサイクルが望ましいサイクルと思うわけですね。何年でも、30年でもこの条件そろってずっとおるんだと、退去条件ないからね。家賃は少し上がっていくけど。そこんにきを仕組みを変えておかんと、そうすると、ずっと若い人が集まっていくんだという、そういうシステムづくりをお願いしたいんですけれども、どうでしょうか。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

まず今回は第1棟ということで、今回募集をさせていただきます。そして、私の希望とし

ては、すごい人気であつという間に30戸で抽せんにならなきゃいけないような、そんなイメージがあつたらいいなというふうに思います。

もしそうだったら、すぐに2棟目の企画を立てます。そのときに、きょういただいた意見というのはすごくいい意見だと思いますので、例えば、町単の予算を入れてでも5年間に限って目茶苦茶安くして、そのかわり5年間の間に出なきゃいけないよというのは最初に、そのかわり相当安くしないといけないですね。15%安くするぐらいで5年間で出ないかんというのは、それは誰も入ってきませんので、そういうことも含めて、まずは今回、初めての経験なんで、これをやらさせていただいて、これの状況を見て、ぜひ今、いろいろな意見をいただいていることは第2棟目以降に反映させていただくようにできたらいいなというふうに思いますので、ぜひそこらあたり御理解いただければなというふうに思います。

○議長（品川義則君）

鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

この問題、このシステム、特定優良賃貸住宅、これはもう10年ぐらい前からみやき町が先進的に取り組んで、私もみやき町の末安町長から基山も始めんですかと何回も言われてきた経過があるんですよ。これでやっと松田町政されまして、今まで質問があつていまして、またわからない件、初めてのケースでいろんなケースがあると思います。それで、今後こういうことをして少子化なりよそから住民の新しい家族を迎えるという大事な事業と思います。

それで、私が質問したいのは、この優良賃貸住宅の設置及び管理条例と、基山町のこれまで行ってきました公営住宅法による管理条例。といいますのは、公営住宅法に基づく町営住宅管理条例は63条になっているんですよ。優良賃貸住宅というのは9条ですね。条例事項が公営住宅が63条あつて、この特定優良住宅は9条で終わっているんですよ。その違いというのは、大体そうだろうなどはわかりますけど、結局、この特定優良賃貸住宅というのは民間が開発して民間がしなさいというのが本来の目的だろうと思うんですよ。公営住宅は町営。だから、基山町営住宅管理条例になって、これについては基山町営優良にはなっていない、民間ということでわかりますけど、法務担当課長なり、この条例を9条にして、公営住宅法では63条、これでは9条で、はっきり言って条例事項はほとんど規則で委任していますよね、今度のこの条例は。これを公営住宅法に基づく町営住宅法は63条まで細部にわたった入居の資格とかいろんなものを入れて、この条例については9条で全部規則に委任して

いる。この根拠というか、それは法令委員会とかでそういう意見とか、この条例を今度制定されたときに、そういうことは問題は何か出ませんでしたか。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

まずは法令審査の前にどういった形で条例をつくっていくかということをお原課のほうから相談されたときに、このPFIを活用した住宅というのが全国的にはまだ始まったばかりで、一応先進地の条例などを研究させていただいたところでございます。

そういった中では、うちよりもっと短い条立てを行っているところもございましたけれども、うちの基本的な考え方としては、やはり名称であったり、例えば、家賃であったりとか、そういった条例として制定すべきところは最低盛り込んで、そういった中で規則委任できる部分については、当然、先ほど鳥飼議員が申されたように、民間を活用してある程度民間の自由な裁量の中で良好な経営を行わせて、効率的に財政も限りなくゼロベースで財政支出を抑えていくという観点もございましたので、そういった観点から条立てが短くなっているというところはあると思います。

最終的に、法令審査の中でもこの部分については、やはり公営住宅のように、公営住宅の場合は、そもそもが準則的なモデル条例案がありますので、それに準拠した形で制定をしてきた経緯はございますけれども、そういった方法をとるべきではなかろうかという議論も行いましたが、先ほど申し上げましたように、結果的には、やっぱり最低限決めておく必要のある部分については条例で定めながら、ある程度民間のノウハウを生かせる部分についた部分も活用していく観点からいけば、そういった制定の仕方がベストであろうということで、今回、上程をさせていただいているところでございます。

○議長（品川義則君）

鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

よその市町村ではもっと短いところも私も見ました。ここで中津市あたりでは33条とか、これは条例の捉え方ですけど、短いからだめということではないけど、やっぱり基本的な項目というのは、やはり条例にすべきと思うんですね。昔といいますか、それは公営住宅法でも家賃は全部条例規定をしていましたけど、今は規則委任、保育料あたりも条例事項やっ

たけど規則に、そういうことで規則委任ということでやっていますが、それで私が質問したいのは、今の条例、第1条の趣旨、目的といたしますか、ここで細かいことですが、特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律、「以下「法」という」とありますよね。次に、地域優良賃貸住宅制度要綱、「以下「要綱」という」というのがないんですよ。これは法務行政の一番基本になると思いますが、というのをなぜ言うかという、もう後に出てこなければ、もうこれでいいんですよ。しかし、第2条の3号、4号に出てくるんですよ。

よその市町村を見ると、地域優良賃貸住宅制度要綱、「以下「地優賃要綱」という」と入れているんですよ、どこの市町村でも。基山町は入っていないくて、私からすれば、法令審査委員会はどのような審査をやっているのかなと。

それで、先ほど訂正がありますよね。第2条の第3項第1号は、第2条第9号と書いて第3号、第4号は第2条第1項と訂正されていましたが、こういう基本的な条文に対して法令審査委員会としての、何か機能されていないんじゃないかと、私は非常に心配になるんですよ、こういう条項は。担当課から来て総務企画課から行きましょう、小さいことかと思えますよ。しかし、こういう基本的な条例という大事なものですから、ここで言う特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律、「以下「法」という」というか、「以下「法」という」というならば、この法が後でずっと出てくることを前提に書かれているんですよ。しかし、あとの第2条から3条、4条、5条、6条、8条、9条、私が見たところ、「法」という規定はないんですよ。あるとすれば、第1条の法及び地方自治法という、ここで法が1カ所出てくるわけですよ。だから、「「法」という」というのはこれでいいと思えますけど、この要綱が第2条の第3号、第4号に要綱というのはフルネームで書いていますから、これにここの他市町村、これは中津市、よそのありますけど、「「地優賃要綱」という」と、こういうことを書くことによって、第3号、第4号は法律の趣旨の要綱と間違いと、こういう基本的なことが担当課なり総務企画課とこの辺の整合性といいますか、打ち合わせとかが非常に私はこのごろ条例関係を見て、その辺のそごがあるように思えますけど。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

確かに今、鳥飼議員おっしゃった部分は、手法として決して間違いではございませんけれども、どちらが読みやすいかということになると思っております。

そういった中で、今回については特に第2条に関して言えば、要綱と省略せずに、特定の、出てきて3回でございますので、その分については読みかえをさせていただかなかったということでございます。

確かに法令審査の中で協議をしながら審査をしていくわけでございますけれども、そのときに決定できなかった分について、後の確認が非常に最近曖昧になっておる部分もございまして、そこについては、特にやっぱり法令を遵守していく基本的な役割を持っておるところでございますので、その部分については、十分に精査をしながら今後とも実施をしていければと考えておるところでございます。

○議長（品川義則君）

鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

総務企画課長、非常に弁解大変だと思います。私はこの際、間違いといいますか、こういうのは私はこの第2条を町長のほうから議会に対して訂正されて、正式なルートで対応してもらいたいと思いますので。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。末次議員。

○3番（末次 明君）

所管ですが、町長に御質問いたします。

先ほど人気があれば2棟目、3棟目も検討したいというふうなことでしたけれども、私の考えは若干違うんですけれども、やはり今、居心地がいいとか、値段が安いというのはいいんですが、基本はやっぱりあそこに住んで基山町が好きになって、基山町に定住していただいて、空き家なり、あるいは宅地が見つければそこに住んでもらうというのが基本だと思うので、余り2棟目、3棟目を建てると、将来的に、将来の30年後に仮に5棟ぐらい残っていたとして、将来の人に負担をかけるんじゃないかなと思うんですが、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

例えば、ただ30戸に対して50戸の申し込みがあったとすれば、直ちにやっぱり2棟目の検

討をしなければいけないんじゃないかなと。その残りの20戸の人たちに対してもやらなきゃいけないと思いますので、例えば、5棟、6棟を建てるような話ではないと思いますが、2棟目、3棟目の検討はあってしかるべきではないかなと。

あわせて、単に若者向けだけではなく、前から言っている高齢者の専用住宅的なものも含めて検討していく必要があるというふうには思っているところでございます。

○議長（品川義則君）

末次議員。

○3番（末次 明君）

若者子育て世代ということであると、やはり退去も比較的しやすいといいますか、退去もしっかりとした明記をしたような形じゃないと、やっぱり。そして、出て基山町に別に住むというふうなことがスムーズに移行するような条例にしていきたいと思います。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

繰り返しになりますけど、この分については、もうこれで行かせていただいて、もし2棟目、3棟目をつくる場合には、そういうことをちゃんと考えたいなと。考えるというか、どれぐらい人気があるかによって、これが逆に言えば30戸を割るみたいな話のときになれば、もうこの制度、この仕組み、少なくともこの地域優良賃貸住宅は断念して違う施策をまた考えなければいけないというふうに思っておりますので、それから、さっき言われた、なるほどねと、5年に限って安くするみたいな話というのはあるかもしれない、そのときには一般の財源から補填しなければいけないので、単なるPFIの制度だけでは無理なので、そういったことはまた考えていかなきゃいけないと思いますが、1棟目につきましては、今これで行かせていただきたいということでずっと提案させていただいておりますので、ぜひそこで御理解いただければなというふうに思うところでございます。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第22号に対する質疑を終結します。

ここで11時まで休憩いたします。

～午前10時50分 休憩～

～午前11時 再開～

○議長（品川義則君）

休憩中の会議を再開します。

日程第2 議案第20号

○議長（品川義則君）

日程第2．議案第20号 基山町地域優良賃貸住宅基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。重松議員。

○9番（重松一徳君）

実は私、今度の中ではここが一番気になっているんですね。この中の第2条「基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算をもって定める額とする。」と。私は本当にこれは一般会計で見ていいのかなと、特別会計にするべきではないのかというのが私の一番の理由なんです。というのは、今度の場合、やっぱり30年間という長いスパンでこの事業は行われますし、場合によっては30年過ぎて40年、50年になる可能性もある中で、本当にそれを一般会計で見ていっていいのかと。私は特別会計にして、特別会計の中できちっと見るべきじゃないのかと。今の、例えば下水道にしても、国保にしても、そのような形で。そして、後世の方が検証できるように、なぜこういうふうに、例えば、今回のPFI方式そのものが財政支出をなるべく減らすんだと、場合によっては財政支出をしなくてこの事業を進めるんだというのがありますから、これを検証するためにも一般会計ですればどうしても出入り含めて私はわかりづらくなる面が出てくるんじゃないかと。そういう点では一般会計じゃなくて特別会計ですべきだというふうに思いますけれども、この辺の議論はどのようにされておりますか。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

重松議員の御質問、定住促進課としてお答えいたしますと、今回、PFI住宅の整備に当たりまして基金を設置いたします。

先ほどの特別会計の考え方ですが、地方自治法上の規定ですね、特定の歳入をもって特定

の歳出に充てて一般の歳入歳出と区分して経理する必要がある場合において、条例でこれを設置することができるかとされております。先ほどおっしゃったように、国保特会等については法令で別途特別会計を定めないといけないとなっておりますので、特会を設置されていると考えております。

今回、なぜ特別会計していないかという考え方ですが、今回の住宅整備事業については、先ほどの規定のとおり、特定の歳入で特定の歳出に充てる。ここの条件というか、構造は確かにそうではあるんですが、今回の事業に当たっての歳入と歳出が、例えば、歳入については社交金、社会資本整備総合交付金と家賃、この2つ、歳出が公有財産購入費、施設の部分と指定管理料、この2つで、歳入歳出それぞれ2つずつ、基本的に先ほどのゼロ計ですね、一般財源からの持ち出しというのはございません。比較的、シンプルな歳入歳出の構造となっておりますので、あえて特別会計を設置してまでということとは現状考えてございません。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

先ほど議案第22号の中でも、町長は、場合によっては一般財源から持ち出して繰り入れて家賃の減額補助をするのも一つの考えなんだというのも言われましたね。今から30年間ですよ、全く一般財源からの持ち出しがないというふうには私は考えていません。必ず、どんなことがあってもこれは一般財源からの持ち出しは出てくるというふうに思っているんですね。そのときに、将来、30年ですよ、もう当然、この中の人は退職されていますし、誰もいないと。後世の人が検証するためにも、きちっと特別会計としてすれば、後で検証ができるんだというのが本当に簡単なんですね。確かに言われるように、みやき町にしても、大刀洗町にしても、これは一般会計でされています。しかし、こういうところは、私は基山町は基山町の独自のやり方で、特に一般会計でしたからといってそんなに問題があるわけじゃないですね。（「問題は特別会計」と呼ぶ者あり）うんにゃ、特別会計でして問題があるわけじゃないですね。検証をするためには、私は特別会計のほうがよりわかりやすいんだと、町民に説明しやすくなるし、10年後、20年後、30年後、それぞれ検証するときもわかりやすくなるんだというところですけども、そんなに特別会計でするのが難しいですか。難しいと私は全然思いませんけれども。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

難しい、難しくないでいきますと、難しくはないと思います。ただ、基本的な会計のつくり方の考えとしましては、一般的に言われていますのは、地方公共団体の会計というのは基本的に1つが望ましいというのがあります。ただ、法令等で定められている分の国保なり、そういった事業については法令の規定に基づき特別会計を設置させていただいて、運用しているということになります。

今回の案件につきましては、できる規定の範疇になりますので、特段つくらなくても一般会計の中で十分に管理ができていくというふうに考えれば、このまま一般会計の中でさせていただいても問題はないと考えております。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

そう言われればそうかもしれませんね。しかし、私が言っているように、例えば今はいいんですよ。20年、30年先の人がこれを検証するときに、一般会計として処理していたらどうしても金の流れ、資金の流れ、これがかみにくくなるんじゃないかと。だから、始める最初から特別会計にして、別立てでこれは見ていくんだと、そして、後世の方がきちっと検証できるようにしていくんだというのが私は一番いいんじゃないかというふうに思いますけれども、これをせずに後世の方が一般会計で見てから、それは資料的には残っているでしょう。しかし、本当にそのときにどういうふうな議論をされて、どういうふうに金の流れでですね、町長が先ほど言われたように、場合によっちゃ減額幅を途中で変えてある、その資金の流れがどこから来ているのかとかいう検証が難しくなりはせんですか。だから、今回の事業は特に30年間で約10億円というお金をかけてする事業でありますから、私は特別会計ですべきだというふうに思いますけど、ここはもう一度検討はしてもらえませんか。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

私の名前が何回も出てきていますけれども、これについて変える話は一切しておりませんので、もし第2弾、第3弾があればという話をしておりますので、そこは誤解のないように。

また、第2弾、第3弾があるということも全然まだわからないような状況なので、私の名前を余りそこで使ってほしくない。

それから、一般会計でいかしていただきたいと思います。特別会計は、これについて現段階でつくることは一切したくないと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（品川義則君）

重松議員、よろしいですか。（「いや」と呼ぶ者あり）重松議員。

○9番（重松一徳君）

町長がそこまで言われるんでしたら、本当に20年後、30年後……（「4回目」と呼ぶ者あり）だから……

○議長（品川義則君）

議長が許可しておりますので。

○9番（重松一徳君）

議長が許可したから言っているんですけども、検証するために、やっぱりきちっとした会計、帳簿のつくり方とか、これに特化したという部分を改めてしとかないと、後で検証ができなくなるんじゃないですか。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

この事業は、どちらかというところでは、まさにモデル事業みたいな感じでやっているというふうに御理解いただければと思います。この事業が基山町の一つの大きな柱になっていく、下水道とか、それから国保と同じような扱いになっていくと、全く今私は思っておりませんので、もしこれを特別会計にするぐらいなら、ふるさと納税を特別会計に先にやんなきゃいけないと思います。物事には順番があると思いますので、これにつきまして、特に特別会計を現段階で設ける予定はしておりません。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

ちょっとよくわからないので、御説明をしていただきたいと思います。

この基金に積み立てるお金は、国から交付される何とかという交付金と、入ってくる家賃、

これを基金にまず積み立てると。歳入でそれを受けて、歳出で基金に積み立てると。そして、その基金から繰り入れてS P Cに支払うということなんですが、繰りかえ運用というのが第5条にありますよね。これも私よくわからないので、それもあわせて説明をお願いします。よくわかりません。町民の方に説明するのによろしくをお願いします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

済みません。ちょっと改めて仕組みを御説明させていただきます。

まず、先ほど歳入の話をしましたけれども、今回の施設の整備に当たっての国からの交付金、社会資本整備総合交付金、これは一旦町で受けますが、その全額をS P Cのほうに支払います。なので、これは基金には積み立てません。何を積み立てるかといいますと、その財源は来年度以降入ってきます家賃ですね、これから来年度以降分割でS P Cに町が支払う施設整備費、分割払い分ですね、これがサービス対価Aと言うんですけども、そのサービス対価Aと、もう一つサービス対価B、これは維持管理に対して今後指定管理の中で支払っていく金額。ちょっと整理しますと、入ってくる家賃から建設費の分割払い分と維持管理費を差し引いた分、この残額を基金に積み立てて、後年度の大規模修繕、10年後と予定しておりますが、ここの財源に充てるという仕組みになっております。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

繰りかえ運用のほうは、私のほうからお答えさせていただきます。

繰りかえ運用といいますのは、例えば、町の資金繰りの関係で一時的に現金がない場合、一般的には金融機関から一時借入金とかという手法をとって、もちろん、一時借入金というのはその年度中に償還してしまいます。そういう意味で一時借入金と言っているんですが、現実、ここ数年、一時借入金は運用しておりません。どういった形でやっているかといいますと、基金で持っている現金を一旦町の資金として借り受けて、また基金のほうに戻すと。こういった操作というか、こういう運用の仕方のことを繰りかえ運用と言っていますので、今回のこの基金の設置条例でこの基金もその繰りかえ運用ができるというふうな規定をつくらせていただいて、そういった一時借入金代わりに運用ができるようにということで、今回

条例の設定をお願いしているところです。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

ちょっと私も調べてくればよかったです、この歳計現金というのは、1年限りの現金の出し入れということですね。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

そうでございます。一時借入金のかわりの運用ですので、その年度間内での運用ということになります。借りたにしても、年度内に基金のほうにお返しします。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第20号に対する質疑を終結します。

日程第3 議案第24号

○議長（品川義則君）

日程第3．議案第24号 基山町地域優良賃貸住宅の指定管理者の指定についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

直接、指定管理のことじゃございませんけど、施設の名称、アモーレ・グランデ、ちょっと意味が非常に、アモーレ、アモーレ、イタリア語か何かあったかなと思って、調べていないですね。アモーレ・グランデ、どういう意味でこれにされた、名称は指定管理者がしているかどうか知りませんが、経緯なり、その辺をお聞かせください。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

名称につきましては、SPCからの御提案でございますが、意味については、アモーレ・グランデ、これは大きな愛。基山町の今フレーズに「アイが大きい基山町」というのがありまして、そちらからというふうに聞いております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。重松議員。

○9番（重松一徳君）

指定管理の期間なんですね。30年間を指定管理とすると。先ほど審議しました議案第22号で、指定管理者の指定というのがありましたけれども、第8条第1項の規定により選定した民間事業者を議会の議決を経て指定管理者として指定することができるというふうになっていきますね。この民間業者というのが、今言われたタウンプランニング株式会社ですね。指定期間は定めがないんですね。タウンプランニングが30年間これを今から先管理していきますよという中身がありますけれども、それと指定管理の期間は、私は必ずしも一致しなくてもいいと。最終的にはこのタウンプランニング with KIYAMAに指定管理をしてもらうにしても、例えば10年単位、今、体育施設とか町民会館とかは指定管理者は5年ですね。これを例えば10年、10年、10年、まず10年間してもらうんだという期間、そして、その10年が終わるときにまた引き続きこの指定事業者に10年してもらおうというふうな発想がなかったのかというのが1つ。

それともう一つは、私も見ていて、この指定管理者の指定料というのは、例えば、これは契約の中では9億5,162万円という金額が出てきますけれども、指定管理料という項目でこれですよというのはないですね。だから、年間30年間では幾ら払うというのが出てくると思いますけれども、例えば、指定管理料にしても、どこでもそうですけれども、1年目幾ら、2年目幾ら、3年目幾らとかいうふうな出し方しますね。指定管理料について、この2点について質問いたします。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

2点御質問いただきました点、お答えいたします。

1点目、指定管理の期間でございます。なぜ30年間かというところですが、前回議決、承

認いただきました事業契約、こちらの期間が30年間、SPCが民間事業者として事業をやっていくに当たって、当然収支の試算をしております。その期間が30年間、先ほど申し上げた大規模修繕等、スケジュールを考えた上で30年と組んでおりますので、ここを例えば10年で切りますよといったときに、同じ条件で受けていただけるかというところが難しいところがありますので、そこは30年間ということ指定管理をお願いするというふうに今回指定したいと考えております。

2点目、指定管理料の考え方ですが、ほかの指定管理の場合に指定管理料というのは指定の中で定める事項には入っていないと考えておりますけれども、考え方としては、先ほど少し申し上げたサービス対価Bの部分、維持管理に係る経費というところで、契約金額の中含まれているような考え方になってきます。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

指定管理の期間は、言われるように受ける指定業者が分けたら維持管理するのに不都合な面があると言われれば、まさしくそうかもしれませんね。

2点目の指定管理料については、何らかの、私は資料が出ていいんじゃないかと。今回受けられた、これは資料出ていましたか。私も資料を見ていたんですけども、契約は9億5,182万1,432円ですね。この中から指定管理に使う金額というのは、ちょっと私も資料を見ていてわかりませんでしたので、もしあれば教えてください。

○議長（品川義則君）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

済みません、現状、資料で明確にお出ししていないところであったんですが、口頭にはなりますけれども、先ほどのサービス対価Bの部分が指定管理料に相当しますが、毎年度、平成31年度以降、毎年、現在の試算で約717万円程度、これの掛ける30年間ということになりますので、トータルでいきますと約2億1,500万円程度になります。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい、もうよかです」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第24号に対する質疑を終結します。

日程第4 議案第21号

○議長（品川義則君）

日程第4．議案第21号 基山町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の制定についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第21号に対する質疑を終結します。

日程第5 議案第23号

○議長（品川義則君）

日程第5．議案第23号 基山町税条例等の一部改正についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。久保山議員。

○5番（久保山義明君）

今回、個人住民税から固定資産税、町たばこ税、3件の税改正が上げられております。これは施行期日がそれぞれ違うわけですが、6月議会で一括で上げられた理由をまず教えてください。

それと、町たばこ税に関して、加熱式たばこの課税方式の見直し、これが非常にわかりづらいいですけれども、資料の20ページにあります旧課税方式、新課税方式、この直接加熱方式、間接加熱方式、この違いによって税率の変化が生まれるという理解でよろしいのかどうか、お答えください。

○議長（品川義則君）

寺崎税務課長。

○税務課長（寺崎博文君）

久保山議員の御質問ですけれども、今回の条例改正で個人住民税、固定資産税、たばこ税をなぜ一括で上げたのかという御質問ですけれども、今回の条例改正につきましては、先日の臨時議会において専決処分の承認をいただきました平成30年度の税制改正に伴うもの以外

のものを上程させていただいております。その中で、固定資産税の課税の特例につきましては、施行日のほうが生産性向上特別措置法の施行の日となっております。現在は未施行ですけれども、今、情報で持っている部分では近日中には施行されるというようなことでありますので、本議会で上程するのが適切かと思って上程させていただいたところでございます。

また、たばこ税につきましては、一番近い施行期日のほうが平成30年10月1日となっております。これについては、周知期間も含めたところで本議会で上程させていただくのが適切かと思って上げさせていただきました。

また、個人住民税につきましては、一部は平成31年1月1日から、また一部については平成33年1月1日からというような形で、施行期日のほうがさまざまになっておりますので、ただ、この部分をいたずらにこの施行期日に合わせて改正を行うこととなると、条例の改正自体のほうで、私どもの見落としというか、そういったことも懸念されるところでありますので、今回一括して上程させていただいたところでございます。

資料の20ページの中段ほどにあります、今の加熱式たばこですね。これについて、たばこの区分としては、今パイプたばこに区分としてなっておるんですけれども、これについて、この直接加熱方式というのは、通常のたばこ溶液というのが一体化したものでございます。加熱式方式につきましては、たばこを吸う器具に溶液を差し込んで吸引するものでございます。今までの税率の1本当たりの価格を算定するときには、溶液の部分が、プルーム・テックという商品なんですけれども、この部分の溶液の部分については課税はされていないような状況でございました。今回の改正におきましては、この溶液部分も含めたところで改正というような形になっております。

その後、税率のほうでどのようになるかというようなところもあったかと思っておりますので、今、アイコスのだたばこの税率が、たばこの税額ですね、たばこ税額として約192円でございます。これが270円に上がります。あと、グローという商品の部分については、今120円ほどですけれども、これが約240円ほどですので、120円ほど上がるような形になります。あとプルーム・テックというのが34円程度でございますけれども、この部分については210円に上がります。

なお、今のたばこ税額のお答えさせていただいた部分については、アイコスという商品は1箱当たり20本で売られていますので、それに応じた税額をお答えさせていただいています。あとグローについても、同じく20本でございます。プルーム・テックについては、1箱5個

というような形の計算になっています。

以上でございます。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。河野議員。

○8番（河野保久君）

非常にこれは施行期日が多岐にわたって、早いのは平成30年10月からと、最後は平成34年ぐらいまでまたがる部分があるのかな。その住民に対する関連するところの周知徹底はどういうふうに、その都度やるのか、一括で今回こういう法改正がなされましたという周知徹底の仕方をするのか、どういうことでお考えなんでしょうか。その都度、改正の何日前という形で何回もやるのか、一括でやるのか。どういうことを考えておられますか。

○議長（品川義則君）

寺崎税務課長。

○税務課長（寺崎博文君）

特に、今回の改正につきまして影響がある部分というのは個人住民税の部分かなと思っています。ですので、いたずらに早く情報を提供したとしても、住民としては、いつからなのというような勘違いが起こる場合もございます。ですので、その翌年度に課税される住民税、それを計算するのにどの時期が適切かというのを判断しながら、情報周知のほうには努めていきたいと思っています。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第23号に対する質疑を終結します。

日程第6 議案第25号

○議長（品川義則君）

日程第6．議案第25号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び同組合規約の変更についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第25号に対する質疑を終結します。

日程第7 議案第26号

○議長（品川義則君）

日程第7. 議案第26号 平成30年度基山町一般会計補正予算（第2号）を議題とし、本案に対する質疑を行います。議案書の24ページをお開きください。重松議員。

○9番（重松一徳君）

この議案第26号の24ページで少し総括的なことでお伺いいたします。

町長の提案理由の中で、主な事業等含めて提案理由があったんですけども、ハード事業についてはそれなりにわかるんですね。ところが、ソフト事業についてはさっぱり理解できないというのが実情であったんですけども、問題は平成30年度当初予算、または施政運営方針とか実施計画等でうたわれている中身にしたら何となくわかるんですけども、今回の場合、またそれとは違う部分が出てきているのかなど。それともう一つは、これはどれだけ庁舎内で煮詰めてから、今回提案されたのかというのが何となくやっぱりわかりづらいんですね。それで、今回提案する段階までどのような議論がこの庁舎内でされて提案されたのかというところで説明をお願いいたします。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

今回の補正予算の、今おっしゃいましたソフト部分でいきますと、大きいところは都市再生整備計画事業で、ハードは駅前とかでしたけど、その分でソフト分が空き店舗チャレンジとか商店街にぎわいづくりの事業とかがございます。コンパクトシティに採択されたことによって比較的有利な率での採択がされている事業となっております。

それと、同じくソフトでいきますと、地方創生の推進交付金事業、これもコンパクトシティに採択をされたことによって優先的に採択をいただいたといいますか、そういった形で採択をいただいておりますので、その事業実施に当たって、これ自体取りまとめは総務企画課のほうでやっていただいておりますので、あと、関係各課で集まって議論をしながら事業の計画を立てていったところがございます。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

今言われた部分のコンパクトシティの事業実施計画、これはことしの2月26日の全員協議会ですかね、そのときに資料はいただいて、私も目は通したんですけども、それでもこのソフト事業、はっきりよくわからないんですね。それで、私が聞きたいというのは、今言われた部分の提案をするのに庁舎内の調整対策会議か、各課長担当の会議の中でどこまで煮詰まっているのかなという気がするんですけども、そういうふうな会議等を経て当然これは提案されていると思うんですけども、この辺は間違いないですか。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

今おっしゃいました調整会議等の中でも話は出ておりますけれども、実際、事業計画を立てるといいますか、執行に当たる、主にはその担当課、もちろん財政課も入りますけれども、そういったメンバーで事業計画を考えながら、今回補正予算をお願いしているところでございます。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

25ページ、第1表 歳入歳出予算補正。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

26ページ、27ページ、歳出。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

28ページ、第2表 債務負担行為。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

29ページ、第3表 地方債補正。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

30ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

次に、事項別明細書に入ります。

3ページをお開きください。

歳入、13款1項1目、2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

13款2項3目、4目、8目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

14款1項1目、2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

14款2項1目、3目、5目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

14款3項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

16款1項4目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

17款1項2目、10目。牧菌議員。

○6番（牧菌綾子君）

10目のふるさと応援寄附基金繰入金のところでお聞きしたいのですが、以前、ふるさと応

援寄附基金というのは今後どうなるかわからないので、継続したものは使わないんだということで、でも、どういう形の基準とかいうものが要るんじゃないでしょうかというのをこの前の予算で聞いたと思うんですけど、今回いただきました予算事業説明書には、事業年数1年というのものもあるんですけど、3年とかいうのものにも使われていたりするので、その基準、こういうものにとということの基準が決まったのを、もし私が説明をどこかで聞いていて忘れているのであれば申しわけないんですけど、もしそうでないなら、この辺のところは判断に困りますので、ちょっと教えてください。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

基本的には、期間限定といいますか、単年を一応基本に考えておりますけど、例えば、補助事業とかで2年間、3年間限定で基山町のまちづくりに資するような事業であれば、そういったものにも、そこは複数年にはなってしまいますけれども、そういうものは充当の事業として念頭に置いてやっております。

それと、今回活用させて、昨年もですけれども、させていただいているのは、あくまでも前の年までに積立金として基金に確保できている分ですので、ことし幾ら入ってくるだろう、それを前もって充当するとか、そういうふうな運用は行っておりませんので、今ある分の中から充当をやっていくということで考えておるところでございます。

○議長（品川義則君）

財政課長、運用の基準はつくっているんですか、明確的に文書であるんですか。平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

いいえ、今のところ、それはございません。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

次、19款1項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

19款4項2目、4目。久保山議員。

○5番（久保山義明君）

2目の夜水遺跡発掘調査受託事業収入ですね。これは、つまり民間側からの受託の収入を受けるとのことだと思います。予算事業説明書の61ページにもあるんですけども、この積算単価ですね、どうやって単価を積算していくのか、この説明をお願いしたいと思います。平米単価なのか、坪単価なのか、ほかの自治体と単価は違うのか、一緒なのか、期間によるものなのか、そういったものでわかる範囲で教えてください。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

夜水遺跡発掘調査の積算についてですけども、この発掘事業を行うに際して、発掘に係る経費ですね、作業員の賃金でありますとか、機械等の借上げの委託料、それから、それに係る消耗品などの経費を文科省のほうの単価がありますので、そちらに沿った形で積算をして、今回掛けさせていただいているところでございます。

今年度と来年度まで整理作業のほうがかかりますので、おおよその予定としては、平米単価では1万円から1万2,000円の間になるかとは思っております。他の自治体との単価の比較ということになりますけれども、ただ、遺跡の発掘調査については、その遺跡の規模ですとか中身について、例えば、住居跡が発掘されればそれだけ手間等もかかりますし、簡易な遺跡であればそこは作業も若干少な目にはなるという部分がございます。それから、他市町、例えば鳥栖市でありますと、基山町の場合は昨年、野入遺跡のほうがありましたけれども、ここ最近では2件程度、鳥栖の場合はまだ数のほうが多うございますので、その中でも、先ほど言いましたような遺跡によつての金額の大小というのが出てきますので、一概に平均という形では捉えにくいかというふうには考えております。

○議長（品川義則君）

久保山議員。

○5番（久保山義明君）

ということは、つまりこれは掘ってみなければわからないという部分なんですかね。要す

るに出てきたものに対して、当然期間が延びたり、埋め戻しで済む場合もあるでしょうし、そうやってやってみないとわからない部分がある中で、要するに大体こういう場合は開発を伴う場合が多いと思うんですけれども、開発のやりようというのが非常に不安定になるんじゃないかなという心配があります。それと、やはり各自治体ごとに単価が違えば、それは民間にとっては非常に不公平というか、そういったものが発生するのではないかなと思いますけど、その辺の考え方を教えてください。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

金額について積算をする場合に、先ほど議員のほうからおっしゃられましたように、途中で発掘する過程でいろんなものが出てきて期間的に延びる可能性というのがありますので、そういった部分も含めたところなるべく追加の費用がかからないような形での積算をして、そこは事前に業者とも調整をしながら、価格のほうを積算しているところです。

それからあと、他市町との単価という部分になりますけれども、なるべく機械の借上料とか、そういった部分の単価というのは合わせていっておりますけれども、どうしても基山町の場合は文化財担当の職員が現在1名ですね、今募集をして、2名でやっていくような形でやっておりますけれども、そういう自治体と、例えばまだ複数名、10名近くいる自治体というのであれば、当然職員がやる部分と委託料とかを使ってやる部分というのが出てくると思いますので、なるべくそのあたりは単純に高い低いということではなく、不公平感のないような形で説明をしながら、業者のほうとは打ち合わせをしているところです。

○議長（品川義則君）

久保山議員。

○5番（久保山義明君）

ということは、例えば、遺跡を掘った場合に非常に重要なものが出てきたと。ただ、それだけ期間もかかるということは、受託の事業費そのものの金額が増していくとなると、開発をやめざるを得ない。そうした場合に、受託収入費用というのは民間が出さなきゃいけないもんなんですかね。多分それは建設課長のほうが答弁されるのかなと思うんですけれども。

それと、先ほど言われましたように、今新しく募集はされていますけれども、非常に人員的に文化財担当は不足しているんじゃないかと、要するに人員の配置によって単価が変わっ

てそこに不平等が生まれることのないような要望をしたいと思っておりますので、よろしく
お願いします。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

先ほどの文化財の分につきまして、私ども、公共施設でも文化財については適用されてお
りますので、その中で申しますと、まず、佐賀県で公表されています包蔵地と言いまして、
要は重要な文化財がある可能性がある地域というのを定められておりますので、通常そうい
ったものも勘察しながら、開発等、計画をつくってまいりますので、ある程度のリスクを負
い、可能な分について事業実施という形になっていくものでございます。

ですので、包蔵地以外であれば余り、過去遺跡がないというような部分もございますので、
大体そういったところに開発がされている傾向がございます。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

19款5項3目。末次議員。

○3番（末次 明君）

一番上の消防団退職報償金についてですが、昨日の私の一般質問でも若干かわりがある
んですけれども、432万1,000円の減額となると、そんなに基山町の消防団の退職報償金とい
うのは多くないと思うんですが、もともとの予定されていた人数に対しておよそ何人ぐら
いの人数だったのに何人ぐらいになったというのはわかるんでしょうか。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

今年度から当初の段階で計上させていただいて退団後、速やかに退職報償金についてはお
支払いをするという観点から、少し例年から比べると多目に予定をしておったんですけれど
も、当初は5年以上10年未満を2名、10年以上15年未満を11名、それから、15年以上20年未
満を1名ということで計上させていただいておりました。最終的に、結果的にお支払いをさ

せていただくことになりましたのが10年以上15年未満が1名、それから、20年以上25年未満が1名の2名ということになりましたので、実際、退職者についてはこれ以外にもおりますけれども、この2名以外については5年未満であったということで対象外であったことから、この金額について、今回補正をさせていただいたということでございます。

○議長（品川義則君）

末次議員。

○3番（末次 明君）

そうすると、大体退職しようという年齢というのは、ある程度入団した団員というのは想定してはいると思うんですけども、やはり団員不足、要するになかなか新入の団員が確保できないから、もう一年残ろうかということで退職年齢が上がっているということは考えられますか。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

今回、当初予算に計上させていただく前については、各部のほうに一度調査をさせていただいています。平成30年3月末で退職予定ということで照会を出して、それから少し割り増ししたところがございますけれども、そういったことで報告を受けた中で計上させていただきました。

結果的に、予定よりもかなり少なく退団されたという部分については、今、末次議員が言われたように、退職する予定だったけれども、補充がうまくいかなかったといったことで残られた方はいらっしゃると思います。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

20款1項1目、2目、7目。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

1目の8節の分の公営住宅建設事業債のマイナス550万円、これは歳出のほうでももちろ

ん出て、計画の内容変更という説明をちょっといただきましたけど、これは本桜の給水管とかの事業があっただけで、そこら辺だと思いますけど、結局どういうところで事業が変更になったんですかね。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

まず、この公営住宅建設事業というものは、国費の交付金の方でございますが——家屋の解体と同じメニューの中であるものでございます。これにつきましては、内示等を考慮しまして、事業の計画を家屋の解体のほうに重点を置いたというところで、こういった内容変更をさせていただいております。

内容としましては、昨年度に高架水槽等の分が終わっておりますので、給水管の一部というところで考えておりましたけれども、先ほど言いました危険と考えられている家屋の分に配分をさせていただいたことによる減額をさせていただいております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

歳出に入ります。

1款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

2款1項1目、2目、3目、4目、5目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

6目、7目、12目、14目。大山議員。

○11番（大山勝代君）

14目の防災諸費のJアラート更新についてです。

地域で回覧板が回ってきてまして、5月16日に鳴らす——鳴らすというかな、情報を出すの

でということ、聞き取りやすいのか、そうなのかを私たちとしては受けとめたのかなと思
いながら、私はもう失念していたんですね。だけれども、地域の近所の人に聞いたり、区
長の話ではなかなか聞こえない、初めに男の人の声が出るから、そこで窓をあけたりとかし
よったらもうそれは終わってしまって、最後に女の人の声はすっと入ってくると。だから、
そういうことに対して今度の当初でも二百幾ら、そして、この更新がまた二百幾らというこ
とですけれども、情報収集を、その後、ちゃんと地域からされて、それをまた地域に返し
ていただきたいという要望ですが、そのことについてはいかがですか。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

今お尋ねの件というのは、Jアラートの全国一斉の放送試験の件だというふうに思います
けれども、一応その分については事前に周知もさせていただきましたし、区長会のほうでも
区長さん方のほうにそういった聞こえ方の状況というか、そもそもは、まずは一斉放送です
ので、鳴らないことには始まりませんので、まずは鳴ったかどうか、あとは聞き取りの状況
について区長さんのほうから報告をしていただくようにしております。

実際の結果としては、当然全地区について放送そのものはされなかったという報告は受け
ておりません。聞こえづらいつかという部分については、特にいただいておりませんけれど
も、これはJアラートに限らず、うちが防災無線として使う場合もございますので、この分
については昨年度とかにテストをさせていただきながら、増設をさせていただいた経緯もご
ざいますので、そういったことで一定の解消はされているというふうに認識をしておるこ
ろでございます。

それと、防災無線そのものは、やはり全てを防災無線で伝達できるというふうには考えて
おりませんので、そのほかのいろいろな方法を使いながら、有事には備えて、住民の皆様方
に早く確実にお知らせできるように努力をさせていただいているところでございます。

○議長（品川義則君）

大山議員。

○11番（大山勝代君）

今、解消されているという認識を持っていると言われましたけれども、なかなか解消され
ていないのではないかというのが私たちの近所の人たち、状況がいろいろ地区で違うとは思

いますが、そういう認識を持っていますということです。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

繰り返しになりますけれども、先ほど申し上げましたように、防災行政無線のみで伝わるというふうには認識をいたしておりません。そういった中で、まずは防災無線が鳴ったといったときので聞き取りにくかったというところに対応するために、昨年から導入いたしました電話システムであったりとか、そういった部分で補完をさせていただいておりますので、そういった部分もあわせ持ったところで緊急の伝達手段については考えていきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（品川義則君）

ほかに。木村議員。

○7番（木村照夫君）

7目の11節の需用費ですね。21万2,000円、これは消耗品なんですけれども、通学路安全隊のベスト、帽子の支給と聞いておりますけれども、17区全員の数とか調査された上の購入か。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

現在、この予算をお願いしている中では、85名分を確保できると思っております。これも現在の調査の中での数というふうに考えておりますが、ただ、ボランティアの方についてですので、今後またふえてきたりすることもあるかと思えます。特に見守り等のお世話をいただいているところについては、そういった強化というのも現在言われているところですので、これについてはそういったところについて考えていきたいと思っておりますが、今回は現時点でのところでさせていただいております。

○議長（品川義則君）

木村議員。

○7番（木村照夫君）

それで、夏バージョン、冬バージョンと、夏暑いからですね、冬寒いから、防寒服とか、

そういうとも必要と思いますけど、そういう服まで検討しているのか。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

このベストと帽子につきましては、網物というか、そういった薄物のものと考えております。ただ、冬においても、このベストは反射鏡、あるいは目立つ色、黄色とか、こういったボランティアをしていただく方の安全な部分、見えやすいという部分もしておりますので、冬、夏兼用できるような形で選びたいと思っております。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

ちょっと確認ですけど、それは貸与ですか、それとも完全に提供ですか。それと、万が一ボランティアの方がやめられたら——まず、貸与か提供か。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

これは貸与だと思っております。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

貸与は貸すということですよ。ということは、ボランティアの方がやめられたら、どうされる、戻してもらおう。じゃ、ちゃんと登録、氏名もきちんと、貸与した方の登録表というですか、それもきちんとするわけですか。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

ボランティアの方につきまして、それぞれの、要は年齢的な事情もあろうかと思っておりますので、その辺は貸与の形で、運用につきましては、今現在、交通指導員を建設課はやっておりますが、それも貸与という形で、おやめになるとときには次の方に渡していただく。当然ほこ

ろび等あれば、それはそこで耐用年数的に終わるわけですが、そうでない場合は、そういう形をとらせていただいております。

今回については、より各区の皆様も使いやすい、あるいはそういったことが言いやすいような方法、窓口を、今後予算の後に考えていきたいというふうに思っております。

○議長（品川義則君）

次行きます。2款2項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

2款3項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

2款5項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

以上で午後1時まで休憩いたします。

～午後0時 休憩～

～午後1時 再開～

○議長（品川義則君）

休憩中の会議を再開します。

事項別明細書21ページ、3款1項1目、2目、4目、5目、6目、22ページまで。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

1目の13節。委託料、その中の消防設備保守点検委託料ということで、説明では年1回のが年2回になったという説明を聞いておりますけど、この場所的にはどこなんでしょうか。たしか2款のところでも4万9,000円というのが計上されて、それは保健センターというふうな説明をいただきました。ここは場所はどこなんでしょうかね。まず、それを1点お願いいたします。

それと、その下のDIYサポーター養成講座委託料の48万6,000円、このDIYサポーター養成という、そのDIYというのは、私だけかもしれませんが、調べさせていただきました。

したのでわかりましたけれども、やはりこういう名称で募集というんでしょうかね、それもされる予定なんですか。

それと、18節の施設備品121万1,000円、これはたしかこのD I Yサポーター養成に必要な備品でよろしいんですかね。資料の55ページに多世代交流拠点活用事業という中に……

○議長（品川義則君）

大久保議員、1項目に3回できますので、まとめて言わんでもよかですよ。

○2番（大久保由美子君）

そうですね、じゃ、まず……

○議長（品川義則君）

では、消防のほうから聞きましょうか。

○2番（大久保由美子君）

4万9,000円の、その分をお願いします。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

消防設備保守点検委託料ですけど、これにつきましては福祉交流館ということになります。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

じゃ、済みません、次の分を。今、2回目ですので。

D I Yサポーター養成という形で、これからもこの文言で使っていかれるんでしょうか。もしそういうことであれば、募集するときには少しD I Yに対する説明書きとか必要じゃありませんかね。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

D I Yという言葉はこれからも使っていきたいと思います。ただ、非常にわかりづらい。ドゥー・イット・ユアセルフで、日曜大工的なところになりますので、そこら辺の説明書き等は入れて、募集等は行っていきたいと考えております。

それと、先ほど備品の関係で言われてありました。これにつきましては、設置する場所につきましては多世代交流センター「憩の家」というところになります。これが当初の段階で、保健センター等で子育て交流広場等を使っている関係で机、椅子等がある程度余裕があったもので、そこら辺を使いながら多世代交流センター「憩の家」のほうに置かせてもらっていたところなんですけれども、やはり保健センターができて20年以上たっておりますので、キャスター等の傷みがありまして、その修繕もできない状態のものを憩の家のほうに置いていたところでございますが、やはり使いづらいということで、新たに備品として購入していただくということで今回上げさせてもらっております。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

では、このD I Yサポーター養成講座をするに当たっては、年4回計画してありますけれども、これに対する備品というんでしょうか、道具の使い方や作業の手順、安全確保とか書いてありますけど、ここでの備品の購入ということは必要なかったんですか。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

工具等の購入も若干必要になってくるかとは思いますが。これがさが未来スイッチ交付金ということで、全体事業、このD I Yサポーター以外の事業のほうも含めたところで申請をされてあって、その中でソフトと同等部分の備品等を購入するというので、全体の中で憩の家の分の備品を購入していくということで考えております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかに。牧菌議員。

○6番（牧菌綾子君）

同じD I Yサポーター養成講座委託料のところですが、憩の家はキッズルームというか、あそこがふえて、入館というか、いらっしゃる方、利用者がふえているんですけど、これは恐らく2階か何かでされるのかなと思うんですけど、その養成講座で委託をされた方が10名程度受講を考えているという説明でした。教えながら、例えば、子どもたちは2階であって

も階段で上がってくるということも考えられるので、そこまでの配慮をしながらの講座をされるのか。それは下の受け付けで事務というか、されている方が危ないときは上がらせないようにするとか、そういう安全面の問題と、それから、木工教室のアドバイザーとして活動できるスキルを持っていただくようにということですけど、そういうスキルを持ったとして、それを新たにどこかアドバイザーとして活動できるような場も町が今後考えていくということでの養成講座なんでしょうか。この2点をお願いします。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

この養成講座は憩の家2階の1室を使う、隔離された部屋を使うような感じにはなってきますので、そちらのほうにはお子様たちは入ってこないだろうということで考えております。

それとまた、安全的に危険性があると考えるのであれば、そういうところの注意はもちろんやっていく必要があると考えております。

それと、次のスキルを身につけて、その後どうするかということになってきますけれども、そのスキルを身につけてもらった方につきましては、登録というところで簡単なDIY、日曜大工的なものづくり方等を教える講座等のアドバイザー、講師として活躍してもらいながら、そういう事業等も憩の家の中、あるいは社協、あるいは各公民館等も頭に入れながら、そういう講座を開いていくような感じで持っていきたいと考えております。

○議長（品川義則君）

牧菌議員。

○6番（牧菌綾子君）

ということは、1つの資格を、講座が終わった後、いろんなサポーター制度もそうですが、何かしらこの資格を取りましたよみたいな形で、ベルトであったりしたりするもので、違うんですよ、この人は教える立場なんですよというものを示すものも準備をされるのか、それはそれで終わりましたという形だけにするのか、それもちよっと1つ気になるんですけど、今、そういう形で活動できる場所も町のほうで今後考えていくということですが、そういうところに行かれた資格を取りましたという方たちは、じゃ、ボランティアで教えてくださいという形で事業を進めていけますか。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

今考えているのは、基本的にはボランティアとして、講師として簡単な日曜大工等を教えていくというところで考えております。

そのほか、この大工面でいいますと、シルバー人材センターの方にもある程度受講してもらい、シルバー人材センターの仕事の幅を広げてもらう、そういうことも考えているところでございます。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。松石信男議員。

○12番（松石信男君）

防犯対策費は総務文教委員会かな。違うやろう。

○議長（品川義則君）

総務文教委員会です。

○12番（松石信男君）

そんなら、そのときやります。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

次に行きます。

3款2項1目、2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

4款1項1目、3目、4目。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

24ページですよ。

○議長（品川義則君）

はい。

○2番（大久保由美子君）

ごめんなさい、これは所管委員会です。

4目の13節、委託料、健康増進計画策定業務委託料ということで250万円、これは資料が出ておりますよね。56ページですね。7の事業計画・内容の概要とか8の現状、目標、課題、必要性、効果などは書いてありますけど、前ページのDIYじゃありませんけれども、具体的な説明が、どういうふうにして策定するんだというのがちょっと見えてきません。ですよね、国の補助はあって、地方創生推進交付金が出ていますけれども、具体的に細かく、もう少し説明していただけないか。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

この健康増進計画というのは、ここに書いてあります健康増進法第8条第2項に基づく計画ということで、任意の計画になっております。これは総合的な健康に対する基本計画的なものになってくるかとは思いますが。それを若い世代、中年層、そういうところで年代ごとに対して、こういうことをやりましょうという目標を定めていくことを基本に目標値を上げていって、それに対する活動的なところを書き込んでいるところでございます。

今、特定健診など実施計画的なものはつくってあるんですけれども、その上位に当たります基本計画的なところが本町はつくっていないところでございますので、一番上位であるのは総合計画という状態ですので、その次に来る健康増進関係の基本計画を作成していくところでございます。

また、計画期間につきましては、平成31年度から平成35年度までの5カ年を計画期間として作成したいと考えているところでございます。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

ここには、この策定事業はあくまでもことし1年間になっていますよね。ですけど、実際は5年間の事業だけ——じゃ、1年目はどこら辺まで計画される予定ですか。5年間の1年目ということでよろしいんですかね。最終的に5年後にきちんと計画ができるんですか。実施計画も——ああ、実施計画は既にあるということ。えっ、逆。計画して、その計画の中にあるものを実施するんじゃないんですか。ちょっと私もわかりませんが。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

これが任意の計画、作成するかどうかは市町で決めていくというふうな義務的なものじゃない計画になりますので、今まで基山町のほうはつくっていなかったもので、今回つくらせてもらいたいと思って上げさせてもらっているところでございます。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

ということは、実施計画ができていますので、実施計画の中身をうまく——事業計画は、実施計画があるので、あくまでもそれを含めたところの計画になりますよね。新たなものというよりも、どちらかといったら。それでよろしいんですか。そして、その実施計画は実際に実施してあるんですか。

○議長（品川義則君）

課長、実施計画の年度とこの計画の年度を言ってください。すると、よくわかると思います。

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

データヘルス計画という実施計画がもうつくってあるところでございます。その実施計画も平成30年度から平成35年度、6年間の計画としてつくっているところでございますので、それとあわせて、1年おくれになりますけれども、平成31年度から平成35年度というところで計画のほうをつくっていきたいと考えております。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

今度の基山町健康増進計画と、何か基本計画というような言い方で、つくるかつくらんかは各市町村の勝手だというような任意の計画だというふうな説明のようでしたけれども、ということは、これにかわる計画なり施策はやってきたと。やっているわけでしょう。にもかかわらず、これをまたつくらんといかんと。健康増進計画、健康増進とか生活習慣病を予防

するようないろんな計画とか施策はやっていると思うんですよね。それにもかかわらず、国が義務づけていないこの計画をつくらなければならない理由は何ですか。

これをつくれれば国からの補助金がさまざまいただけますと、それによって健康増進事業を盛んにやれますと。このごろでは各市町村からいろんな計画なりを出しなさいと、それを国が査定して補助金をつけますよというやり方があるわけですから、これをすれば基山町の町民の方の健康が維持され、その結果として医療費抑制にもつながっていくということなんですかね。基山町は今までいろいろやってきているわけでしょうが。だから、ちょっとね。国が義務づけとんならいいですよ。ばってん、つけとらんのに何でかなというのが正直なところですよ。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

これにつきましては、先ほど申したように、任意の計画とはなっています。佐賀県内でうちとあと1つ、2町だけがつくっていないという状態が続いているというところも1つあります。

それとあと、この計画自体も補助に乗せることができる。作成費の2分の1は地方創生のほうから出るというところで、今回つくっていきたいと考えたところです。

実際実施はしていますけれども、トータル的な未来的な今の現状に合わせた方針的なところをまだつくっていないということもあります。新しい事業としましては、健康ポイント、そういうところも含めた目標的なものは定めていく必要があるとは考えているところでございます。

○議長（品川義則君）

酒井副町長。

○副町長（酒井英良君）

私のほうからわかりやすく説明しますが、今、基山町の総合計画というのがありますが、そういう総合計画のような健康増進のための総合計画をつくるということでございます。今、実施計画と言っているのは、健康診断とか、そういうものを行うための計画をつくっているというのが実施計画ですので、健康増進のための総合計画をつくって、それにあわせて実施計画をつくって、それから、今後は健診とか、そういうものをしていく

ということでございます。総合的な計画ですので、よそのを見ますと、栄養とか食生活、身体活動とか運動、心の健康とか、それから、飲酒、禁煙、口腔、歯とか、生活習慣病予防とか、健康管理とか、健康増進とか、そういうものの総合的な計画をつくって、それを目標を立てて、その目標に対して今度は実施計画を立てて、健康診断とか、そういうものを行っていくというものでございます。今立てているのは、総合健診とかを行うための計画をつくっているということでございます。個別計画というものになります。

○議長（品川義則君）

副町長、任意のものをなぜつくるかという質問には答えていないんですけども。

酒井副町長。

○副町長（酒井英良君）

これはしなければならないという絶対的な計画ではございませんけれども、健康増進法の中ではつくることができるというふうにされていますので、よその市町村でもそれは町民の健康増進、それから福祉についてですので、そういうものは基山町のほうでも総合的な計画をつくって基山町の健康増進を図っていこうということでございますので、基山町としてもつくっていかなければならないというふうに考えているところでございます。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

言われたことは何となくわかるような感じなんですけど、町は健康福祉課を中心にいろいろやってこられているわけですよ。やってきているわけですよ。それが効果がないということなんですか、これをつくらないと。つくってやらないと効果がありません、それともう一つは、いや、地方創生推進交付金が2分の1出ますので、つくらんよりかつくったほうがましですよと、ちょっと言い方は悪いですが、申しわけないんですが、ということなんですかね。

それともう一つ、これをつくれば、さまざまな健康にかかわる、基山町民の方が健康になると。健康寿命というのが叫ばれていますので、こういうことに非常に貢献できる、そして、そのことによって国からの補助金もいただけるしということなんだということなんですかね。

それで、できるなら資料として、今、基山町が行っている健康増進にかかわる施策、計画とか、この一覧表を出していただきたいんです。どういふのを実際今やっているのか。いや、

それで足りない。さっき副町長は、いや、健康増進のための総合計画が必要なんだと。そして、それに基づいて具体的な実施計画が必要なんだと。今までは基山町はやっているはずなんだけどなというふうな感じを受けましたので、今やっている基山町民に対する健康増進というか、健康維持というか、何かいろいろやっていますよね。どういふのを今やっているのか。さまざま施策とか計画とかあると思いますので、その辺は資料として一覧表で出せませうかね。

○議長（品川義則君）

中牟田健康福祉課長。

○健康福祉課長（中牟田文明君）

健康施策として全部ですかね。健診の項目、項目を全部というところを出していくと、非常にすごい量にはなってくると思いますけれども……

○議長（品川義則君）

概要版で結構ですので、出していただけますか。（「いや、今までやっているわけよ」と呼ぶ者あり）

やっていることの概要版をわかりやすくできるような、今回、この計画をつくるのに、なぜ必要かというふうな説明が納得いかないから、今、健康福祉のためにやっていることの全体的な概要版を資料で出してください。それは委員会審査の前で結構ですか、松石信男議員。そこまでにお願いいたします。

松田町長。

○町長（松田一也君）

健康というのは実は健康福祉課だけではなくて、スポーツとか、まちづくり課とか、縦割りに今なっているので、まずはそこに横串を今回入れます。

それから、健康福祉課だけでも、今わかっていることとして、基山町は成人病が非常に少ないと言われてはいますが、腎臓疾患は最高に多いということになっています。その原因を究明しなきゃいけないし、その対策的なものも立てていかなきゃいけない。やるべきことはたくさんありますので、そういう意味でいうと、今回、健康増進計画は本当の意味での「健康のまち基山」を標榜するためにはつくらなければいけない計画だというふうに思っておりますので、ぜひ御理解いただければと思います。

それから、施策については、資料としてまた提供させていただきたいと思います。今やっ

ているのは、特定健診受診率を上げるためにはどういう努力をしているとか、そんなやつはやっていきますけれども、それではこれは済まない話なので、ぜひそういう基山町独自のまさに健康増進の計画をきちっとつくりたいというふうに思っております。決して地方創生推進交付金がついたからやるみたいな話ではございませんので、そこは誤解のないようによくお願いいたします。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

済みません、もう一回。今、町長が言われた答弁でちょっと思い出したんですけど、たしか新聞報道で基山町は成人病が一番、何かが一番少ないというふうなこと——いいです、いいです。（「脳梗塞」と呼ぶ者あり）脳梗塞が一番少ない。ああ、いいなと思ったんですけども、だとすれば、基山町の健康に関する基山町民の方の課題はどうと。今のところ町長の頭では、これからつくってみないとわからんというところもあるかもしれませんが、課題としては、健康増進のための基山町民の実態というかな、健康の実態を踏まえた課題としては何があると言われるのか。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

たくさんあると思いますけど、まずは腎臓の透析の患者数は基山町は抜群に多いです。まずはこれを考えなければいけないというのがあると思います。それ以外もきちんと調べれば、もっと基山町の問題点、これからの高齢化の中でどういう対応をしていくか。それと一方で、やっぱりスポーツ人口が非常に多くて、そのことによって基山町の健康がある程度維持されている部分もあると思いますので、その辺のメカニズムもきちっと調べる必要があると思いますので、そういうこともあわせて計画の中で調べて、そして、計画を立てていって、より基山町がいい方向、健幸のまちになるように努力していきたいというふうに思います。

○議長（品川義則君）

町長、今、抜群に多いと言われたんですけど、それを具体的に言っただけませんか。そうしないとこれだけの計画を立てるわけですから、また、健幸のまちづくりでありますから、町民にも正確な数字を出していただくようお願いしたいので、抜群というのはどれぐら

いの数字ですか。

松田町長。

○町長（松田一也君）

今、宙には覚えていませんけど、普通のところの1.5倍ぐらいあったと思います。その数字はありますので、お出しできると思います。腎臓疾患が基山町が多いと。人口1人当たりの、もっと言うと透析をやっている患者の数が多いというのが出ていますので、そういうことも含めて、きちとした形でそれを皆さんにお知らせして、その対策を出すのが今度の計画だというふうに思っておりますので、ぜひ御理解いただければと思います。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。重松議員。

○9番（重松一徳君）

私は計画は当然必要な部分だと思っているんですね。当初、実施計画では来年度にこれは策定するというのが出された、第5次総合計画の見直し部分の実施計画ではなっていますね。ところが、何回も説明がありましたけれども、地方再生コンパクトシティの一つのモデル都市に基山町は選定されたという形で、この中の一つとして地方創生推進交付金がついたんだと。今回、推進交付金、これは交付率が50%と大変いいですから、これを利用するというのはわかるんですよ。その中で、私たちがわからないのは、今回、今言われた部分の事業もそうですけれども、いろんな事業があるんだと。外出促進に向けてとか、集いの場とか、コミュニティ増進とか、いろんな部分がスマートウェルネス事業という名目であると。そうすると、まず私たちはきょう提出してもらった追加資料の説明を受けないと全体がわからないと。事業名は言われた分ですけれども、まずこれについて説明をしてください。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

それでは、本日、6月4日付で提出をさせていただきました基山スマートウェルネス事業の概要につきまして、提出の資料に基づき御説明をさせていただきたいと思っております。

資料の1ページのほうをお願いいたします。

今回、この事業につきましては、もともとは地方再生コンパクトシティに本町が本年1月5日付で応募申請を行ったことから始まるわけでございますけれども、その後、1月22日に

第1次審査を通過して、結果的にまずは55都市に選定をされたところでございます。その後、2月に国交省、内閣府の現地視察、ヒアリングを受けて、3月下旬に全国の32都市の中に最終的に選定をされたところでございます。

この間については、先ほど重松議員も少し御説明されましたけれども、本年2月26日の全員協議会において地方再生コンパクトシティについて御説明をさせていただいておる分の資料が本日提出させていただいた3ページ、4ページ、こういったところに基づいて御説明をその当時させていただいておるところでございます。

そして、これにつきましては3月下旬に最終的に選考をされまして、左側の都市再生整備計画事業と書いております部分が社会資本整備総合交付金で、右側の分が地方創生推進交付金、この2つの交付金がハード、ソフト面から3年間、重点的に優先して支援を受けるということになったわけでございます。

そういった中で、社交金を活用した事業につきましては、どちらかというところハード的な、今回の補正でもお願いをいたしておりますけれども、基山駅前ロータリー整備事業などがあるわけでございます。一方、地方創生推進交付金を活用した事業につきましては本日御説明をさせていただきます基山スマートウェルネス事業ということになります。

この分につきましては、まず1ページの当初の申請段階で申し上げると、健康増進計画の策定であったり、外出の促進ということで孤立化を防止するための事業、それから、集いの場をつくること、それから、コミュニティ増進ということで申請を上げておったところでございます。

今回の事業の内容につきましては、2ページのほうに掲載をさせていただいておりますけれども、まずは先ほどから御質問をいただいております健康増進計画策定事業でございます。この健康増進計画につきましては、やはり先ほど副町長が申しあげましたように、健康版の総合計画として、これを中心としてさまざまな施策を展開していくために策定を行っていくということで、当初、実施計画のほうでは平成31年度から取り組むことといたしておりましたけれども、要望で結果的に採択となりましたので、1年間前倒しをさせていただいて、平成30年度に策定をさせていただくところでございます。

それから、2番目のまず健康ポイント事業でございますけれども、この分については逆に採択の段階で不採択というふうになっております。理由としては、個々についてのインセンティブ的な要素が強いということで、この分については推進交付金にはそぐわないだろうと

ということで、結果的には交付金の対象外となっておりますので、この分については町単独事業で実施をさせていただくこととさせていただいております。

次に、「きのくに音頭」「きやまブギ」の編曲につきましては、これは当初予算の段階から計上させていただいておりますけれども、この分については、外出促進に向けて、いろいろな観点から普及啓発ができるということで内閣府のほうと協議をさせていただいて、対象と含めることとさせていただきましたので、今回、財源的に補助対象とさせていただいております。

それから、次の3番目、4番目、オリジナルソング、それから「キングダム」のキャラクターパネルにつきましては、当初予算の段階ではメモリアルタウン基山プロジェクトのほうで実施をしたいということで当初予算の中でお願いをさせていただいたところがございます。それで、結果的にメモリアルタウン基山プロジェクトについては1回目の選考では不採択ということになりました。そういった中で、この2つについては、メモリアルタウン基山プロジェクトもブラッシュアップをして2回目に提出をしていこうとはしておいて、今、準備をしながら内閣府と協議をさせていただいております。

ただ、その中で、この2つについてはどうしていくかということを検討していましたときに、内閣府のほうに御相談申し上げたときに、この分についてはスマートウェルネス事業の中の外出促進に向けてという考え方を使得される方法もありますといった御助言もいただきましたので、今回、メモリアルタウン基山プロジェクトについては補正は行っておりませんが、このスマートウェルネス事業として新たに、オリジナルソングについてはどぶろっくさん、それから、キャラクターパネルについては「キングダム」を使用したところでスマートウェルネス事業のほうで取り組みをさせていただきたいと考えております。

その関係で、結果的にメモリアルタウン基山プロジェクトのほうが確定いたしましたら、この2つの事業については当然メモリアルタウン基山プロジェクトの事業の中からは削除をさせていただきたいというふうに現在考えております。

それから次に、3番目の集いの場づくりのためにということで、クイモの普及促進、消費拡大ということで30万円計上させていただいておりますけれども、これはクイモの普及イベントをしたときの食材費として計上をさせていただいております。

それから、夏祭りへのどぶろっく出演誘致につきましては、これは当初から交渉をしなけ

れば間に合わないだろうということで、もし採択とならなくても単費でもやっていきたいということから、この分の50万円については当初から計上をさせていただいておったところでございます。

同じくはしご酒イベントでのエミュー肉の消費拡大ですね、いわゆるKAPPOへの補助金につきましても、この分についても単独でもやりたいということから当初で計上をさせていただいておったところでございます。

最後に、4番目のコミュニティ増進を目指してということで、健康食品普及拡大事業として、これについては久留米大学の医学部と今、下打ち合わせを行っておるところで、共同してこういった健康にまつわりますキクイモですとかエミューを使った健康商品の開発を行ってきたいということで計上をさせていただいております。

それから最後に、スロージョギングにつきましては、これまでも一昨年ぐらいからスロージョギングについては特に普及拡大を図ってきておるところでございますけれども、これにつきましては継続的に今後とも事業をやっていくという観点から、今回また25万9,000円の——この分については当初からこれまでも町の事業として進めてまいりましたので、今回、新たに財源のほうをスマートウェルネス事業に求めているところでございます。

簡単でございますけれども、事業の内容の説明としては以上でございます。

○議長（品川義則君）

3ページ、4ページの説明はいいわけですか。

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

3ページ、4ページにつきましては、先ほど申し上げました2月26日の全協の折に説明をさせていただくときの資料として提出をさせていただいたということで、資料の参考ということで掲載をさせていただいておりますので、説明は省略をさせていただきたいと思います。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

それぞれの区分の事業については、事項別明細でまた後からほかの議員も聞かれるからここでは聞きませんが、1つは、それこそ名称なんですね。私もよくわからん。スマートウェルネスという事業が基山町で果たして町民の方に普及するかと。これは国からのいろ

んな部分ですからね。私はいあまり横文字を使うのはよくないというのが1点と、もう一つは、この全体的な名称として「コンパクトに暮らそう健幸のまち」と。この「健幸」という文字をある程度何らかの形で町民の方に知らせないと、これは誤字じゃなかかいと当然出てくると思うんですよ。だから、この辺を何か資料として、この「健幸」とはどういう意味で基山町は使うんだというのを議会に対してまず資料として、私たちが当然それをもとに町民の方には知らせますからね、この「健幸」とは一体どういう造語といいたいでしょうか、何でこの言葉を使うのかというのがあれば教えてください。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

まず、スマートウェルネスにつきましては、国の申請段階でうちのほうが使わせていただいた分でございますので、議員おっしゃるように、非常に理解については難しい部分もありますので、どちらかという、今後、展開していく中では後段の「コンパクトに暮らそう健幸のまち」を前面に出していければというふうに思っております。

そういった中で、この「健幸」というのは確かに造語ではございますけれども、単純に申し上げれば、健康で幸せなまちをつくっていこう、それが一番簡単で明快ではなかろうかと思えます。非常に抽象的な言い方かもしれませんが、この事業自体が全体的にいろいろな事業を展開していく中で、何が健康で何が幸せでと言われる部分もあるかもしれませんが、そういった外出の促進であったり、集ったりすることも一つの健康ではないかと。その中で、喜んだり騒いだりとか、気持ちが高揚したりとか、そういったことで幸せになる部分もこの言葉で言いあらわす「健幸」ではないかということが基本的な考え方にあるというふうに私は思っております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。重松議員。

○9番（重松一徳君）

だから、今言われたのを文書としてやっぱり出してもらわないといけないと。資料として。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

これをどういった形で出すかというのも非常に難しい……

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長、座ってもらって結構です。

内山まちづくり課長。

○まちづくり課長（内山十郎君）

追加資料の4ページですけれども、右側のほうに「健幸のまち基山の実現」という大きい四角囲みの一番下、ちょっと小さい文字で非常にわかりづらいんですけども、米印に「スマートウェルネス…高齢になっても」という中に、括弧書きで「「健幸＝健康で幸せ（身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること）」づくりの支援体制を構築する」と、先ほど総務企画課長が答弁しました内容の文字はここに書かせていただいているところがございます。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

まず、そう思っていらっしゃらないかもしれないですけど、何か町長が思いつきで決めた名前やないかみたいに思われている節がないかなと思って、そうじゃないということをまず言いたい。逆に言えば担当課、担当者が何人か集まって本当に短い時間で、このコンパクトシティの55になった瞬間に、社交金のほうはつくということが決まったので、ハードは少し早くからできたんですけど、ソフトは32になって初めて動き出したので、これは担当者が本当に知恵を絞って出してきた名前なんです。私も正直わかりにくいと思わなかったことはないんですけど、やっぱりここはそういう熱意というか、ああ、そういうことを考えたんだねというような感じでやっておりますので、もしこれが町民の方にわかりにくいということだったら、またもっとわかりやすい言葉で補足していきますので、あんまり名前には、とりあえず地方創生に提案するときの名前ということで今出させていただいておりますので、そのところは御理解いただければなというふうに思っております。

それで、なるべくわかりやすい説明を加えていきながら、町民の皆さんにわかっていただけるようにしたいというふうに思っておりますので、よろしく御理解のほうをお願いいたします。

○議長（品川義則君）

久保山議員。

○5番（久保山義明君）

資料全体の話になりましたので、ここであわせてお尋ねします。

追加資料の2ページの分ですね、これは事業採択後の金額が掲載されております。確認をさせていただきます。この事業採択後の金額、これは全部承認済みということによろしいでしょうか。

それと、メモリアルタウン基山プロジェクトから移行している部分が2項目ありますけれども、この移行についても全て承認をされて今議会に諮られているということによろしいですか。確認します。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

まず、メモリアルタウン基山プロジェクトのほうにつきましては、現在、先ほども申し上げましたけれども、ブラッシュアップをして2回目に提出をさせて……

○議長（品川義則君）

課長、ブラッシュアップはわかりやすく日本語をお願いします。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

済みません、磨き上げて提出をさせていただくこととしておりますので、今回、こちらのほうで承認をいただくことになれば、当然、申請の中から落とすこととなりますので、計上としてはこちらのスマートウェルネス事業で対応をしていくということになります。

この分については、全体的にスマートウェルネス事業の当初の部分が全てこの内容になっているかというところと非常に微妙なところがございますけれども、ここについては経費の配分の変更の中で対応していけると考えておりますので、そういった対応をとらせていただきたいというふうに考えています。

○議長（品川義則君）

課長、承認されていますかということなんですけれども。

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

この分については承認をいただく予定になっております。

○議長（品川義則君）

久保山議員。

○5番（久保山義明君）

そのメモリアルタウン基山プロジェクトのブラッシュアップの件はわかりました。

それで、今回、移行しているわけですよね。その分で承認を得られているかということであれば、承認を得られる予定であるというふうな答弁でした。もちろん承認されなければ動き出せないと思うので、それがいつごろ承認されるのかをお尋ねします。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

現状としては、少なくとも今月中にはその結論が出るというふうに考えておるところでございます。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「個別は後で」と呼ぶ者あり）

24ページ、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

では、6款1項2目、5目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

6款2項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

7款1項1目。（「何ページですか」と呼ぶ者あり）27ページ、商工費。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

ここも産業振興課というところで資料が57ページに出ておりますもんね。でしょう。（発言する者あり）13節、委託料です。ごめんなさい。空き店舗活用チャレンジショップ業務委託料のところですよ。その資料は57ページですよ。

これってモール商店街のこのようなんですけれども、空き店舗はほかにも中心市街地に

はないんですか。そういうところは想定されていないんですか。それが1点。

この中に、リフォーム費用に係る費用への助成を行うことと書いてありますが、今までもモール商店街の空き店舗の中に少しずつ埋まってきておりますけれども、今、残りが幾つあって、この助成の上限というんですか、それとか、何十%までだったら出すとか、そういうところをちょっと教えてください。

○議長（品川義則君）

毛利産業振興課長。

○産業振興課長（毛利博司君）

今の空き店舗活用チャレンジショップ事業の件ですけれども、これは中心市街地活性化基本計画の中での事業にも入れているところでございます。今、4つの商店街がございましてけれども、これは空き店舗の移動状況調査ということで、商工会のほうでされている分の平成29年度分の実績でございましてけれども、今、合計で5店舗というふうになっているところでございます。

今回はその中の1店舗の空き店舗の改修費用ということで使いたいというふうに考えております。

あとの御質問があった部分につきましては、これから考えていきたいというふうに考えております。

○議長（品川義則君）

大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

助成金というところはわかりますか。店舗に対する上限、何十万円までしかできないとか、それか何十%というんですかね。

○議長（品川義則君）

毛利産業振興課長。

○産業振興課長（毛利博司君）

助成金とか、その内容につきましては、まだはっきり決めてはおりません。わかりませんが、この予算の範囲内で事業を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

先ほど答弁にありました中心市街地活性化基本計画、これに基づいた事業だというふうに思っております。それで、今回、3カ年にわたる事業となっているわけです。この3カ年で基山町の空き店舗の解消、この目標は決められていないのでしょうか。例えば、中心市街地活性化基本計画では1年に1店舗かな、そういうふうな形になっているとは思いますが、5年で5店舗ぐらい——ちょっと済みません、はっきりしません、やはりその目標をね、事業をするための効果が必要ですから、そういう点で目標の設定はいかがですか。

○議長（品川義則君）

毛利産業振興課長。

○産業振興課長（毛利博司君）

今回の3カ年につきましては、まず今回、コンパクトシティのモデル都市ということで全国32自治体に選ばれている中で、都市再生整備計画事業、この中でのソフト事業ということで3カ年、こちらをまず利用して進めていくものでございます。

実際、中心市街地活性化基本計画の中では、議員おっしゃるとおり、5年間の中で1店舗ずつの解消をしていくということでございますけれども、まずは都市再生整備計画事業のソフト事業の空き店舗活用チャレンジショップ事業の中では3カ年で解消をしていくというふうに考えております。

○議長（品川義則君）

課長、3カ年で5店舗を解消するんですか。

毛利産業振興課長。

○産業振興課長（毛利博司君）

済みません、中心市街地活性化基本計画の中では5店舗でございますけれども、都市再生整備計画事業の中ではそのうちとありますので、最低でも3店舗は解消していきたい、そういうふうなことで思っております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

では、28ページ、8款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

8款2項1目、2目。栗野議員。

○4番（栗野久明君）

8款2項2目の15節。工事請負費ですね、駅前広場改修工事の件なんですけれども、資料53ページで平面図をいただいております。ここでバスの寄るところとか新しいタクシーの待機場所、それから、一般の車、駅に用があつて来た人とか、そういった方がとまる場所と思うんですけれども、この基本的な考え方というのはどういった考えでできているか、ちょっと説明してもらってよろしいですか。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

それでは、追加分の6月2日の資料の6ページをお願いいたします。

これは資料の見方としては、右手のほうが基山駅になります。左手のほうがモール商店街の方向になっております。現在は自動車については右回りの一方通行規制になっております。これについては変えることはなく、自動車については、この図面の中の白抜きの矢印がございしますが、これが自動車の誘導というところで考えております。

まず、下のほうが一般送迎の待機、あるいは短時間駐車ということを考えております。中央部にタクシー等の業務用の待機場所、それと北側に「バス」と白抜き文字があるところがバスの一時的な待機場所というところで、シンプルになることによりまして歩行者、自転車との交差する部分がどうしても避けられない分がございしますので、そこについて事故が起こりにくいように、視界を確保するという形でこのように一般送迎と業務的なものを分離させたところになっております。

それから、自転車の動線となっておりますが、自転車は現在の立体駐輪場が左上のほうになります。右側がJR側の平面駐輪場になっております。さらに、左下のほうが瀧光徳寺より借り受けをして、現在、駐輪場として使っておる平面の駐輪場となっております。駐輪場については、現在も同じ形で運営をしております。ただ、立体駐輪場の場合は一部改修等の予定で、とめておるところにつきましては来年度の改修を目標としておりますので、これによりまして2階も使えるような形で、自転車の台数としては利用台数がふえるというふうを考えております。

そういった中で、点線で入れておりますのが自転車の方向ですね。南側、北側、西側と移

動がありますので、それぞれ下のほうが南側から進入した場合、現在、道路交通法によりまして自転車は車両の区分帯の左側を走る、路側帯を走るとなっておりますので、路側帯のほうを走る。通常、近いほうにとめられるというのを予想しております。また、北側のほうにとめる方につきましては、先ほどの道路交通法がございますので、自転車をおりて押していただくと。今回、そういった看板等の誘導部分も考えておるところでございます。さらに、今度は西側のモール商店街方向から来た場合は同じように西側の駐輪場、あるいは北側のJR側の駐輪場に入る場合は道路交通法に基づく左側通行と。バス等がなければ、そのまま左側通行で入ることは可能ですが、安全面の中では中央のほうで降車をし、自転車を押していく駅方向か、また、そのまま北側の歩道を押していくスタイルかというところで考えております。これらについても誘導マークとして自転車です、矢羽根と呼んでおりますが、そういった矢印のマークをそれぞれ入れて誘導していきながら安全性を確保していきたいと考えております。

○議長（品川義則君）

栗野議員。

○4番（栗野久明君）

説明はわかりました。

ちょっと私が疑問を感じたのは、バスはわかります。朝夕は結構多いですから。一般車両の駐車場の部分が一番右端で、前の植栽のところにできてきたわけですが、タクシーが真ん中に来ている。真ん中に歩道がありますよね。歩道を通るタクシーの量が多いんじゃないかなと思ったんですよね。深読みして、一般車両が多いから右側に持ってきたのかな、逆に言えば私はタクシーはインコースで回って、横断歩道を余り通らないような形のほうがよかったんじゃないかなと思うんですよね。そういった配置になった理由があったのかなと思ったんです。駅前の安全確保ということでうたっていますから、その点に関すると、横断歩道を横切る車両が多いんじゃないかなとちょっと思ったもので、そこら辺、再考できるものだったら再考になりますし、もう区画もできているからちょっと難しいかなと思いますけど、そこら辺の配慮があったのかなとちょっと思ったものでですね。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

まずは横断歩道につきましては、業務用も一般も同じ道路交通法ではございますが、ただ、業務用の場合がより安全確保ができるように、会社での安全指導など、そういった手法もございます。また、常時利用される部分ですので、その分、何といたしますかね、短所となるべきところも十分熟知の上の運転となるというふうを考えております。逆に、一般送迎の場合は時間等に迫られて急ぐという部分がございますので、こういった配置をさせていただいております。

いずれにしろ、今回、この図面では表示できておりませんが、カラー舗装で視覚的に迷いが少ないような形をつくりたいと思っておりますので、そういった面での補強も今回考えておりますので、こういう配置をさせていただいております。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

ちょっと済みません、基本的なことをお伺いしたいんですが、この駅前広場の改修工事の理由というか、これは何のためにやるということだったのですかね。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

まず、この駅前広場は三、四年前から混雑時の事故のおそれ、実際、数は少ないんですが、事故もあっております。そのような中に、住民意見かつ議会のほうで行われた意見交換の中でもそういった未然防止の対策ですね、混雑しても大丈夫なような駅前広場の改修というのが意見として挙がってまいりましたので、その後、私どもとしても調査をいたしまして、最終的にこの中活等、こういった基山駅周辺の空き空間の計画等も固まってきたところ、ちょうどこの事業の応募がございましたので、それで応募させていただきまして、国の交付金を利用してこういった安全性の向上ということの整備を計画しているところでございます。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

それで、今回この事業をやって、その効果として期待できると。駅前の混雑とか、場合によっては交通事故が発生するかもしれないし、その解消に期待できるということなんでしょ

うけれども、そうしますと、この図面を見てみますと、今までの町民の方の送迎用の一時駐車場が移動になったですよね。変わって、そこにバスが一時停車できて、待機場所という形になっていると。今、各会社の送迎バスがあると思いますけれども、町道にたしか一時停車して送迎というか、乗降しているのかな。そういうのがこれで解消できるということになるんでしょうか。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

今考えていますのは、この駅前広場の混雑緩和というところで、先ほど言われました手前のモール商店街のほうで乗降をしていただきながら緩和の対策をとっているというところでございます。ただ、これにつきましては、当然、時間帯的に集中する部分もございます。また、大きい企業の送迎バスは大型バスとなっておりますので、この緩和措置は状況を見ながら続けていきたいと現時点では思っております。こういった駅前広場の改修された後の利用状況を見ながら、この広場だけの運営にするのかというのは、安全面を確認しながら今後考えていきたいと思っております。

このバスの区画に表示は入れておりますが、実際のところ専用という区分ではしておりませんので、あくまでも優先という形ですので、普通の一般自動車が入っていることを排除する目的ではございませんので、その辺も含めまして案内板なりカラー舗装なりで視覚的に誘導していきたいというふうに思っております。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

今答弁ありましたので、わかりましたけれども、今の町民の方の送迎用の一時駐車場、これも改修後でも使っていいんですよということは、町民の方にその辺についても知らせるといことなんですか。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

図面下の南側の一般駐車場が通常の利用で、ここを利用していただくことによって事故を

防止するという目的がございますので、ただ、今述べさせてもらったのは、あくまでもここがいっぱい、あるいはすぐ目の前にお待ちいただいているとか、そういう状況の場合は入ることは可能というふうなことをお伝えいたしました。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。松石健児議員。

○1番（松石健児君）

一部、松石信男議員が質問されたので、事業説明のところで12台ぐらいのスクールバス、あるいは企業のバスが停車するというので、今、3カ所出されてありますけれども、その辺が緩和できるような計画、根拠をお伺いしようかと思いましたが、御説明がありましたので。

ただ、乗車、下車する場合は駅前のところにバスは一時停車して乗車、下車をするようになるのかどうかということと、あと、一般の乗用車が駅前の乗降が終わったときに、今、新しくできた駐車場に入る場合、これは駅側のほうから入っていいのか、あるいはぐるっと回ってモール商店街側のほうから入らなくてはならないのか、その点だけまず御説明ください。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

広場については今までどおりですので、右回りの一方通行的な動きになります。南側の下から見ますと、左側から右に回っていただくとなると思っております。

○議長（品川義則君）

松石健児議員。

○1番（松石健児君）

それと、言い忘れましたが、やっぱりバスの停車する区分であれば、これは一般の車の停車はなるべく避けるような指示を出していただければと思います。

それと、細かい部分はこれから打ち合わせの中で指示、表示、カラー誘導等もされるということであったんですけども、多分、乗車、下車した場合に、駐車場にとめる場合、駅側のほうから入ってくる可能性がありますし、今、この表示でいくと、これは先に行って右折の表示のことだと思いますけれども、この辺が曖昧になると、実際に一般自動車が入るところは誘導の線も何もないですよ。その辺が明確になっていないと、こちらの進入が非常に

曖昧だということと、それと、これはほかの交差点でも言えることなんですけれども、この図面でいくと一番下側の横断歩道を渡る手前ですね、植栽があると思いますけれども、この辺は非常に見渡しが悪いですし、バスが多く通ることになれば、運転手席側からすると死角になりやすいと思いますので、できれば植採を外してポール状のガードレールですかね……

○議長（品川義則君）

松石議員、細かいことになりますので、質問は課長にお伝えいただいて、厚生産業常任委員会のほうで詳しくしていただいたが明確になると思いますので、よろしいでしょうか。

○1番（松石健児君）

わかりました。その辺の横断歩道の安全面等もう一度十分検討していただきたいと思います。

○議長（品川義則君）

課長、よろしく願いいたします。

ほかにございませんか。重松議員。

○9番（重松一徳君）

同じ2目のところの15節、町道舗装補修工事に関する部分だと思いますけれども、資料の47ページ、これは神の浦の本当に狭い道のところなんです。私もここはいつも大変危ないなと思いながら見たりするんですけれども、道幅が狭くて、すぐ崖になっていると。ここは今回は擁壁をするんだと。転落防止ですね。ここは途中までやっとな軽自動車が行くぐらいで、それから先は歩いてからしか行かれないみたいになっているところでもありますけれども、今回、これをするのは、例えば、要望があつてするのか、それとも、基山町がこれは補修しないと危ないという形ですか。

それともう一つ、それこそここは家を建てかえようと思っても建築確認がとりようがないみたいな、道自体が狭いし、それから2メートルセットバックすればいいけれども、それでも道自体は狭いですね。そうすると、今から先、基山町にはこういう道はほかにも何か所かあつたりして、今回、私の7区の地元でも、町道の幅が狭いから自分でその分を買って道を広げるとかいうのもあつたりした部分もあるんですけれども、基本的に基山町はこういう狭い道路をどのように解消をしていこうというふうな計画をお持ちですか。

それと、今回の部分はどこから要望が上がったのかも含めてお願いいたします。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

まず、先ほどの家が建つかどうかの件は、ちょっとここは2項道路といいまして、建築基準法上の従前からの道路で、防災上、確保できれば建てられるところでございます。

そして、今回の事業の発端といたしましては、議案・補正予算関係、6月1日の資料47ページの下のほうにしておりますが、上のほうは町道であります、町道ののり面の下が一般の住居となっております。今回、町道ののり面が雨等で崩壊しまして、のり枠アンカーという工法でのり面の安定を保っているところなんです、そこに雨水が入りまして、安定が損なわれるおそれがあるという危険性から、私どものほうでこういった崩壊部分の情報を受け、現地を確認して、もともと不安定なのり面を補強している部分でございますので、継続するために、早期に安定化を図るために今回補正を出ささせていただいております。

道といたしましては、今言いますように、建築基準法上でも認められる道となっておれば、こういった車が通る部分がぎりぎりでも確保されておれば安全策等を確保しながら道路として利用することは可能かと考えております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにごございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

では、8款3項3目、30ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

8款5項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

9款1項2目、消防費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10款1項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10款2項3目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10款3項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10款4項1目、3目。36ページです。栗野議員。

○4番（栗野久明君）

夜水遺跡のところですけども、10款4項3目13節、委託料、ここで空中写真を撮影するとなっているんですけども、これはどういった撮影になるのでしょうか。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

この委託料で補正をお願いしております空中写真については、今回、発掘調査を行いますので、その発掘した部分の空中写真ですね、上空から遺跡を撮影して、そこを記録として残していくという部分での空中写真撮影の委託料ということになっております。

○議長（品川義則君）

栗野議員。

○4番（栗野久明君）

ちょっとお聞きしたかったのは、撮影方法というか、空から撮るんですけど、飛行機とかじゃなくて、ドローンか何かで撮るんですかね。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

今回上げさせていただいているのは、ドローンによる空中写真の撮影ということで考えております。

○議長（品川義則君）

栗野議員。

○4番（栗野久明君）

現地を確認してきましたけれども、上空には何もない箇所、安全性が保たれるなど。ドローンが飛ぶときに近接の場所に架線とかあったらいかんなどと思って、ちょっと確認しました。そしたら、問題ないから、そこについては質問を終わります。

ちょっと議長、よろしいでしょうか。教育費の中で2カ所ぐらい、事業説明書と数字のそごがある場所があるもので、ちょっとそこを確認したいんですけども。

○議長（品川義則君）

どうぞ。

○4番（栗野久明君）

1つは、10款4項3目13節、委託料の中の貸し切りバスのお金が、資料の62ページでは5万円となっておりますけど、こっちが2万6,000円ですよ。どちらが正しいのかな。

もう3回目ですから、もう一カ所、次の場所になるんですけども、10款4項5目、文化振興費の中の謝礼と健幸のまち普及拡大業務委託料の中に、もう一つ、きやまサンバ等ブラス編成編曲手数料というのが18万9,000円入らなければいけないんじゃないかなと思ったんですけど、この金がどこに入っておるのか。どこにあるのか、これも事業説明書と差異があるもので、ちょっと確認願います。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

議案資料62ページの民俗芸能を活用した地域活性化事業の歳出の貸切バス運行业務委託料で5万円上げておりますけれども、こちらの分は、今回、さが未来スイッチ交付金のほうで新たに5万円上げさせていただいておりましたが、当初予算の時点で貸切バス運行料というところで2万4,000円上げております。ここで予算の明細部分の関係になりますけれども、一般財源のほうから2万4,000円上げていた分と、今回、新たに補助事業を利用した部分で5万円上げておりますので、その差し引きの2万6,000円という数字を事項別明細のほうに上げさせていただいております。（「もう一カ所」と呼ぶ者あり）

○議長（品川義則君）

もう一点、謝礼。（「謝礼のところ」と呼ぶ者あり）

内山まちづくり課長。

○まちづくり課長（内山十郎君）

補正予算説明資料の63ページの健幸のまち普及啓発事業、こちらの歳出の中の2番目にきやまサンバ等ブラス編成編曲手数料18万9,000円、これは先ほど総務企画課長のほうが説明しましたように、当初予算の中で独自の予算として上げておりましたが、これを今回、スマートウェルネス事業にのせるという形でしておりますので、ちょっと内部的な話になりますけれども、事項別明細には出ませんけれども、事業の予算としては、この予算の中に組み入れておりますので、今回の補正でいいますと、37ページの中には出てきていないということでございます。

○議長（品川義則君）

ほかに。末次議員。

○3番（末次 明君）

同じく13節、委託料の貸切バス運行業務委託料なんですけれども、園部くんちとか御神幸祭というのは基本的に日曜日ないしは祝日に開催されておまして、コミュニティバスが動かないということなんです、今回の貸し切りバスの運行経路及び料金はどうなっているのでしょうか。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

御神幸祭については、昨年度もバスのほうを運行させていただきました。これはコミュニティバスの2号車を祭り当日の午後、12時以降、御神幸祭の場合は御仮殿から荒穂神社に行きますので、その荒穂神社のほうに至って、その後、1時間程度、16時過ぎぐらいまでの時間になりますけれども、その部分で、その日、通常の運行とは別ということなので、こういった委託料を使って運行をさせていただいております。

本年度もそういう形で、祭りの当日、コースとしては駅前から役場、それから、臨時の駐車場として昨年も利用させていただきました役場と社協の場所を巡回するような形で今回も運行をしていこうというふうに考えております。

○議長（品川義則君）

末次議員。

○3番（末次 明君）

園部くんちのほうにはバスは行くんでしょうか。

それと、バスの運行の町民へのPRといたしますか、広報はどういうふうになっているんでしょうか。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

園部くんちのほうもですね、1区や2区の総代さんたちと検討しまして、どういったコースがとれるのかを検討して、どういう形か、今後考えていくようにはしております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。末次議員。

○3番（末次 明君）

あと、園部くんちでしたら基山の球場が近いし、御神幸祭だと、このあたりの駐車場、役場周辺の駐車場も近いんですけども、やはりしっかりと事前のPRを早目にさせていただきたいと思います。

○議長（品川義則君）

鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

先ほど栗野議員の質問への答弁をちょっと聞きそびれたんですけども、62ページに貸切バス運行業務委託料が5万円あって、36ページの事項別明細書の2万6,000円、この説明をちょっと聞きそびれたんですけど、ちょっとその辺の説明を。

○議長（品川義則君）

井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

もともとの当初予算のほうに2万4,000円委託料を組んでおりまして、今回、補助事業の部分ということで5万円、こちらの資料の62ページのほうに上げさせていただいております。事項別明細の記載としては、もともとの2万4,000円を削除した形で、2万6,000円の今回の補正ということで上げさせていただいております。

○議長（品川義則君）

ありがとうございます。

ほかにございませんか。河野議員。

○8番（河野保久君）

こうやって民俗芸能の伝承をしっかりとしようという試みは非常にうれしいなという気がするんです、正直言って。肝心なのは、僕はやっぱり担い手の問題だとか、特に、若い子どもたちがこの祭りを知らない。もっと子どもたちにどういう祭りだというのを見る場を、以前は小学校で民俗芸能の人が来てもらって、やってもらったりもしていた。大変なのはよくわかるんです。わかるんですけど、何かそういう場を、特に、けやき台の子たちというのは触れることが少ない子も多いので、その辺のこともちょっと考えていただいて、やはり担い手、特に、子どもたちはこれから大切な担い手なんで、教育学習課もそうだし、ほかのところでもそういうようなことも考えて、民俗芸能の保存なんかのところでも役立てていただきたいと思います。そういうような検討はぜひ地元の方としていただきたいと思うんですが、よろしくお願いいたします。

○議長（品川義則君）

要望でよろしいですか。（「はい、よろしゅうございます」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10款4項4目、5目。末次議員。

○3番（末次 明君）

5目の文化振興費、13節。健幸のまち普及拡大業務委託料です。これはオリジナルソングをつくったり、あるいは「きやまブギ」とか「きのくに音頭」を編曲するということなんですけれども、実際に編曲というのはどういう形で、誰に使ってもらうということで考えられたアイデアなんでしょうか。

○議長（品川義則君）

内山まちづくり課長。

○まちづくり課長（内山十郎君）

編曲につきましては、「きのくに音頭」とか「きやまブギ」というもともと基山町にある

分ですけれども、これは既存の音源でしかなかったんですけれども、以前、もうちょっと基山の歌を使ったりとか、オリジナルソングで入場行進とか、そういうのをやったらどうだということもありましたので、もともと昔からあるこの曲を使って基山町内のいろんなイベントであったりとか、そういうときに地元の方が演奏できるような曲として編成をしていただくということで、目的としては、基山中学校のブラスバンドでもこういった曲が演奏できるようにということで、町内に編曲ができる方がいらっしゃいますので、そういった方と相談しながら編曲をしていこうという形でしております。

○議長（品川義則君）

末次議員。

○3番（末次 明君）

それでは、私たちが「きのくに音頭」なり「きやまブギ」を聞く機会というのが、ほぼきのくに祭りのときぐらいかなと。それとあと、各区の盆踊りを開催されているときにかけるぐらいで、ふだんなかなか聞かないので、非常に私は残念に思っていたんですけど、町民体育大会とか、こういうときに、今度つくった曲も含めて、編曲した曲をぜひ流してほしいんですけど、どうでしょうか。

○議長（品川義則君）

内山まちづくり課長。

○まちづくり課長（内山十郎君）

ぜひことしの町民体育大会に、昼休みの間に少年スポーツのパレードがあるんですけども、あのとき中学校のブラスバンドでずっと入場行進の演奏をしていただいていますので、ぜひそのときには——ちょっとまだ物もでき上がっていないので、確定的なことは言えないんですけども、ぜひその中で披露ができて、ことしがだめでも、来年以降、また、ふれあいフェスタとか、そういったところでも披露ができればというふうには考えております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。

ほかにございませんか。大久保議員。

○2番（大久保由美子君）

済みません、所管ですけど、今の末次議員へのまちづくり課長の答弁でちょっと思い出したんですけど、吉野ヶ里町だったと思うんですけど、電話の保留のときに吉野ヶ里町の音楽、

音頭というんでしょうか、それが保留音で流れていたんですね。ああ、それはいいなと思ったこともあります。もしその編曲がそういうのにも利用できたらいいんじゃないかなと思ひまして、ちょっと済みません、この場をかりて、よろしくお願ひします。

○議長（品川義則君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

では、38ページ、10款5項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

14款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第26号に対する質疑を……（「済みません」と呼ぶ者あり）予備費のどこですか。（「41ページ」と呼ぶ者あり）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

今回、一般職の職員が1名減になっていますけれども、これは中途退職でしょうか、それとも、新規職員で1名辞退されたという部分がありますから、その部分の1名減なのかというのと、もう一つ、給与費1,570万円、合計で2,600万円も、こんなに高い給与をもらっている職員がいるんですか。ちょっと私、ここがよくわかりませんので、説明をお願いいたします。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

今、議員おっしゃいましたように、人件費の総額としては、今回、約2,600万円ぐらいのマイナスが出ていますけれども、給与担当から話を聞いているのでは、中途退職の2名分のマイナス分が約1,500万円ぐらいで、残りの1,000万円ぐらいが育休者の分を臨時的任用とかで予定していた分が不用見込みということで減額で落としていますというふうな説明を受け

ております。

○議長（品川義則君）

熊本総務企画課長。

○総務企画課長（熊本弘樹君）

この1名減については、文化財保護主事が2月末で1名退職をしております。当初予算の段階ではそのところが流動的でしたので、社会人経験枠と現職分と合わせて計上をさせていただいておりました。その関係で1名プラス的な形になっておりましたので、そこを整理させていただいたところでございます。

それと、先ほどの二千何百万円の部分は、おおむね財政課長が申し上げたとおりでございまして、ここの部分というのは例年は3月補正のときに全部整理させていただいて落としていたんですけれども、ことしはわかっているうちに補正をかけておくという方針に変えさせていただきましたので、今回、そういった育休の関係で減額になっておるところでございませう。

○議長（品川義則君）

重松議員。

○9番（重松一徳君）

それこそ文化財担当の職員が平成29年度に退職したというのは私も少し聞いたんですけれども、平成29年度に中途で採用したんですね。結局、この文化財担当職員は。それから半年かそれぐらいで退職されたという形で、これは何かの折に、なぜ退職されたのか、理由も含めてというふうに私は聞いたことがあるというふうに思うんですけれども、今、職員の方が大変少なくなっている中で、片方では再任用とか、いろんな努力もされてから確保はされているんですけれども、仕事量はやっぱり毎年毎年多くなってきているんだろうと思います。今度の補正も含めてですね。そうすると、職員の方にその分だけ負担をかけていくと。職員の方も余裕がない中で新たな事業を切り盛りしなければならないというふうな中で、この職員の確保について、今回、1級建築士の社会人枠の採用予算が組まれていましたね。（発言する者あり）ああ、3人ですか。何かちょっとそういうのも組まれていましたけれども、職員の確保をしっかりしていってもらいたいと、これは要望ですけれども、申し上げておきます。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

きちっと答えておきますね。まさにおっしゃるとおりで、職員は物すごく頑張っています。

該当の文化財の件は、理由は申せませんが、特殊な理由で今回退職になっています。そのかわり、また今、3人公募中のごさいますて、今言われた1級建築士と文化財と臨床心理士、もしくは社会福祉士の資格を持ったような保育士も3人募集しているところのごさいますので、そこらあたりはなるべく職員の負担がかさまないように努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

○議長（品川義則君）

ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第26号に対する質疑を終結します。

日程第8 議案第27号

○議長（品川義則君）

日程第8. 議案第27号 平成30年度基山町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を議題とし、本案に対する質疑を行います。

議案書の31ページをお開きください。31ページありませんか。松石信男議員。

○12番（松石信男君）

先月、国保税率の一本化を図るということを実務者会議で確認したという新聞報道がなされています。今の動きについて説明してください。

○議長（品川義則君）

吉田住民課長。

○住民課長（吉田茂喜君）

4月と5月に会議のほうが開かれております。昨年度、本年4月から国保の県単位化開始に向けて、将来の一本化を目指すことが決定されました。本年度からは実際どのような道筋で一本化を目指していくかについて市町の会議が始まっております。

まずは一本化するに当たっての今後の協議事項が佐賀県から示されておりますので、今後、具体的なたたき台や幾つかのパターンが示されまして、それに対して各市町間で歩み寄りが

どこまでできるのかといったところを協議していくことになっていきます。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

一本化されると基山町のがどうなるかということで、また心配します。今、基山町のスタンスとしては、ここで言えるかどうかわかりませんが、どういう立場で臨まれようとしているのか。まず、実務者担当会議で決めて、あと、首長会議でやるというような形になっているようですけれども、その辺で答えられる範囲で答弁をお願いします。

○議長（品川義則君）

吉田住民課長。

○住民課長（吉田茂喜君）

現在、その会議の中では、今後10年をめどに一本化をしていきたいということで県のほうが案を出しております。先ほども申しましたけれども、ゴールは10年先ということを決めまして、それに向けてどういった一本化の方法がいいのかどうかというのを県のほうから案を出されているような状況でございます。

町の今後ということでありましてけれども、県のほうから標準保険税率というのが出されまして、それに基づいて、各市町がそれに合わせるのか、また、現在の状況で国保の運営が成り立っているという市町であれば、まだ現在の国保税率で運営を行っていけるところはそのままということでありましてけれども、今後、その標準税率が毎年出されて変わっていくと聞いておりますので、それがどの時点で基山町の国保の運営が財政がもたなくなるかということも含めまして、まだ不透明な状況ではございます。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

32ページ、第1表 歳入歳出予算補正、歳入の分です。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

33ページの歳出。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、事項別明細書に入ります。

事項別明細書3ページをお開きください。

歳入、7款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

歳出、1款1項1目。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第27号に対する質疑を終結します。

日程第9 議案第28号

○議長（品川義則君）

日程第9. 議案第28号 平成30年度基山町下水道事業会計補正予算（第1号）を議題とし、
本案に対する質疑を行います。

議案書の34ページをお開きください。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

次に、補正予算書に関する説明書に入ります。

1ページをお開きください。

実施計画兼事項別明細書です。

収益的収入及び支出の部の収入の部。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

2ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

3ページ、支出の部。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

4 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

5 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

続いて、資本的収入及び支出の部の収入の部。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

支出の部。8 ページまでありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

9 ページです。予定キャッシュ・フロー計算書です。9 ページありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

10 ページ。給与費明細書です。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

11 ページ、予定損益計算書。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

12 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

予定貸借対照表、13 ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

負債の部、14ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

15ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

資本の部、16ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、議案第28号に対する質疑を終結します。

日程第10 報告第2号

○議長（品川義則君）

日程第10. 報告第2号 基山町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。

議案書の36ページ、ありませんか。重松議員。

○9番（重松一徳君）

37ページの部分ですけれども、繰り越しをされて、3カ月ぐらいあります。進捗状況で、これは終わったというのがあれば、それを出してください。

それと、進捗状況で、まだ5割を満たしていないというのがあれば、それをお示してください。

○議長（品川義則君）

古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

8款2項の道路橋梁費の跨線橋（鹿児島本線）橋梁補修事業負担金でございます。ここにつきましては、協定を結んでおりまして、年度内完了の約定は終わっております。ただ、これはJRに受託工事として工事を行っていただく部分でございます。JRの繁忙期、列車の通過の多い時期は除くようになっておりますので、現時点では5割を満たしませんが、協定の中では完了で約定をいただき、現在、その準備段階で進めております。

○議長（品川義則君）

ほかにはないですか。答弁のほうは以上ですか。（発言する者あり）

長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

開発行為区域の補助金について、これはまだ見込みでして、執行率についてはまだゼロで
ございます。

その下の子育て・若者世帯の住宅取得補助金については、現状、全て240万円の対象につ
いては申請が出てきている状態で、あとは最終的な確認待ちですとか、そういった状況が何
件か、幾つかある状況でございます。

○議長（品川義則君）

ほかのところは。井上教育学習課長。

○教育学習課長（井上克哉君）

中学校の大規模改修事業についてですけれども、今、設計業者のほうが決まりまして、設
計のほうに入っている段階でございます。

○議長（品川義則君）

甘木鉄道は。長野定住促進課長。

○定住促進課長（長野一也君）

甘木鉄道の分は、こちらは負担金で、甘木鉄道に出す部分なんですけど、事業費としては
これで決定済みで、最終的な精算待ちという形にはなっております。

あと、都市計画の分は既に委託の契約を締結しまして、現在、委託に基づいた作業中とい
うことでございます。

○議長（品川義則君）

橋梁補修工事が残っていますが、進捗状況はいかがですか。古賀建設課長。

○建設課長（古賀 浩君）

橋梁補修工事につきましては、J Rとの取り合いの部分だけが残っておりまして、現在、
進捗は5割は超えておりますが、J Rとの取り合いの分が同時に終わりましたら同時に完了
となっております。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかに。松石信男議員。

○12番（松石信男君）

済みません、今、説明があったとは思いますが、この翌年度繰越額の金額との関係、これは事業費じゃないと思うんですが、金額から見ると100%繰り越しているのがほとんどですね。その辺は、いや、事業が終わりませんでしたのでということでしょうけれども、何でそやんなつとですかね。ちょっと私の捉え方が不十分なのかと思うんですが、いろんな各種事業。どうしてもできないということは当然あり得るんですが、いや、期間内に終わらないなら繰り越しゃいいやということじゃないんでしょうけど、ちょっと済みません、その辺、私の理解不足かもしれなので、ちょっと説明ください。

○議長（品川義則君）

平野財政課長。

○財政課長（平野裕志君）

今回、報告でお出ししております繰越計算書につきましては、例えば、2行目の子育て・若者世帯の住宅取得補助金というのは、もともと予算の総額としては2,000万円を予算化させていただいていて、そのうち240万円分が、例えば、年度末近く申請で、事業完了が年度内に終わらない分の……（「それはわかる。同じやつを言うて」と呼ぶ者あり）ああ、同じやつですね。（「そのまま全部やんかというのを。こういうふうになくなっていくやつは、ようわかるとおっしゃる」と呼ぶ者あり）

じゃ、一番上の開発行為区域内道路整備補助金の関係につきましては、これは1件分で500万円、それが丸々そのまま繰り越しをお願いしたという実績になりますし、先ほど建設課長が言っていましたJRへの負担金につきましても、3,300万円、まだ見込みが立っていなかったんで、丸々繰り越しをさせていただいたということでございます。

○議長（品川義則君）

松石信男議員。

○12番（松石信男君）

だから、何でそうなるんですかと。結果的にそうなんでしょうけれども、もちろん繰り越していいんですよね。繰り越していいんですが、やはり年度内に基本的には終わらせていただきたいと。いや、繰り越す仕組みになっていますからということだろうと思うんですが、その辺について、ちょっと私にわかりやすく仕組みも含めて説明ください。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

同じレベルという前提でいうと、多分、私、専門的に言われるよりも、結局、分けられるやつと分けられない、要するに一つのものとして分けられるやつは、ここまでやりましたので、ここまで終わったので、残りがこれだけで繰り越しているけど、全体で一本のやつは、例えば、工事は途中まで終わっていても全部を繰り越しているという、それだけのことではないかと思えますけどですね。だから、逆に言えば何%できているという質問は、そういうことで質問をされていたんじゃないかと思えますけれどもですね。そういう理解でいいんでしょうね。（「そういう理解でよかと」と呼ぶ者あり）

○議長（品川義則君）

酒井副町長。

○副町長（酒井英良君）

個別に50万円ぐらいの補助のあるやつは、どうしても3月末で終わらなかった分は繰り越すわけですね。でも、一本で契約しているやつは、その工事が何かの事情で3月までに終わらなくて、4月以降になったから全部を繰り越すということになります。

○議長（品川義則君）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、報告第2号に対する質疑を終結します。

日程第11 報告第3号

○議長（品川義則君）

日程第11. 報告第3号 基山町土地開発公社の事業報告についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。鳥飼議員。

○10番（鳥飼勝美君）

土地開発公社ですね、懸案の公社で、私も質問ばかりしていましたが、やっとなんていいますか、1億2,100万円の事業収益で、土地の購入費といいますが、土地の原価が8,000万円ということで、4,100万円の現金が残って、よその市町では塩漬け土地とか、いろんな社会的な批判を浴びてきたんですけど、おかげで基山町につきましては、松田町長の英断をもった

基山保育園の新築とか、いろんな面でされて、私も非常にこの面については大変うれしく思っているところです。

これで基山町の土地開発公社は全て解散してもいいというふうな状況と私は何回もしておりますけど、松田町長は土地開発公社をいろんな活用方法も含めて今後も残したいという考えでございますけど、現状から将来を見通した考えについて町長の御意見をお伺いします。

○議長（品川義則君）

松田町長。

○町長（松田一也君）

いよいよ土地開発公社の役割が出てくるときが、やっと来ました。それはコンパクトシティの32地域に認定を受けたから、土地代まで見てもらえるメニューがこれで発生しました。具体的には、これは意見交換会でも言っていますけど、JAの土地、今のJAがあるところはまさにそうで、JAとの関係があるので、いいタイミングで町で買って、そのまま補助事業にそのタイミングでできるというのは非常に難しいので、先行取得という意味での土地開発公社の役割というのはすごく可能性が出てきましたので、お待たせしましたけれども、やっと役割が出てきましたので、ありがとうございます。待っていただいたおかげで、そういうチャンスがめぐってまいりましたので、ありがとうございます。

○議長（品川義則君）

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

ないようですので、報告第3号に対する質疑を終結します。

以上で質疑の全てを終結します。

日程第12 委員会付託

○議長（品川義則君）

日程第12. 委員会付託を議題とします。

ただいまより議案付託表を配付しますので、しばらくお待ちください。

〔資料配付〕

○議長（品川義則君）

ただいま議案付託表を配付しましたが、配付漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

お諮りします。会議規則第38条の規定により、今期定例会休会中の審査に付するため、議案付託表記載どおり、これを総務文教常任委員会、厚生産業常任委員会に付託することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（品川義則君）

異議なしと認めます。よって、以上のとおり決定しました。

本日の会議は以上をもって散会とします。

～午後2時55分 散会～